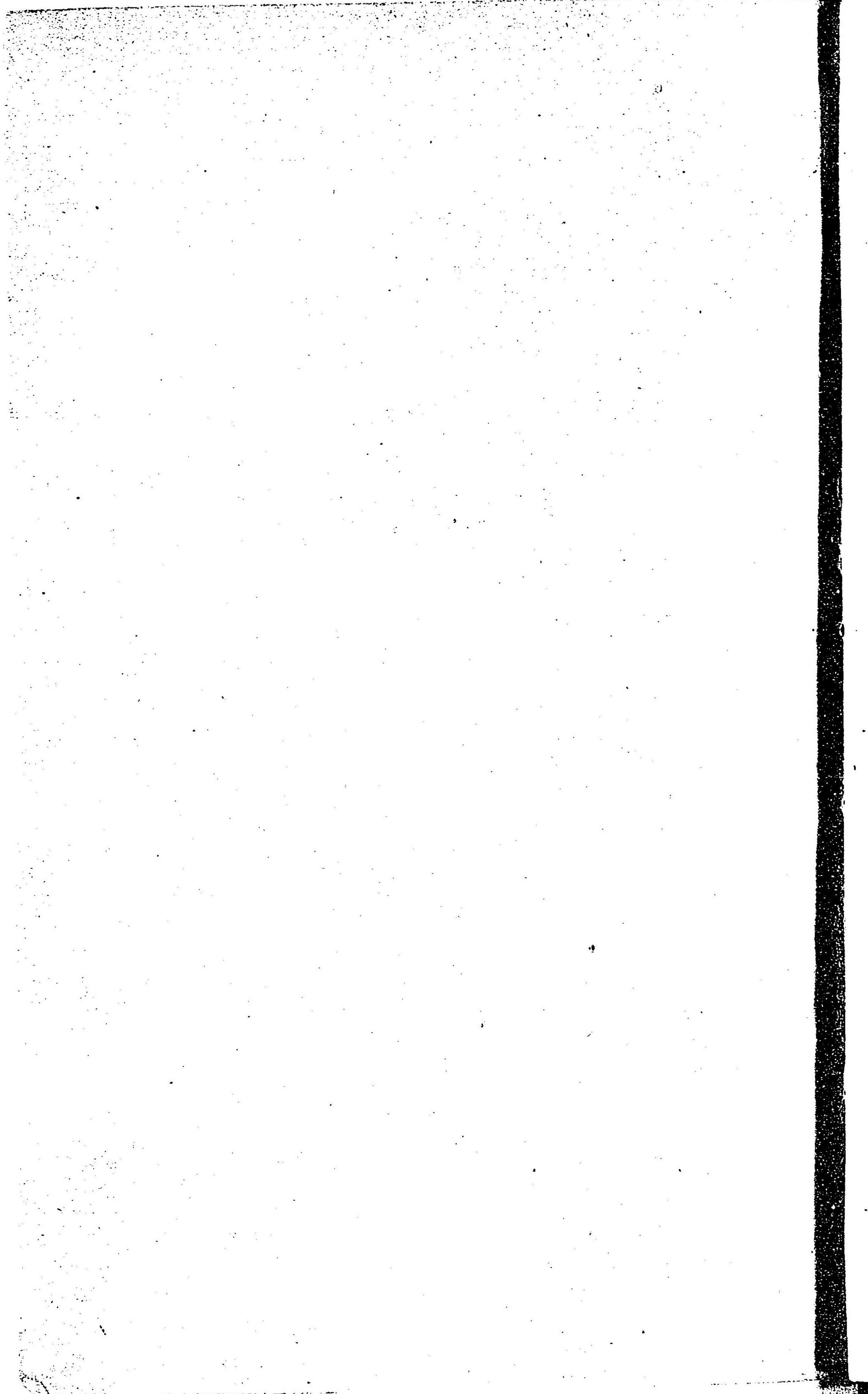


北村三郎

北村三郎著

東洋策

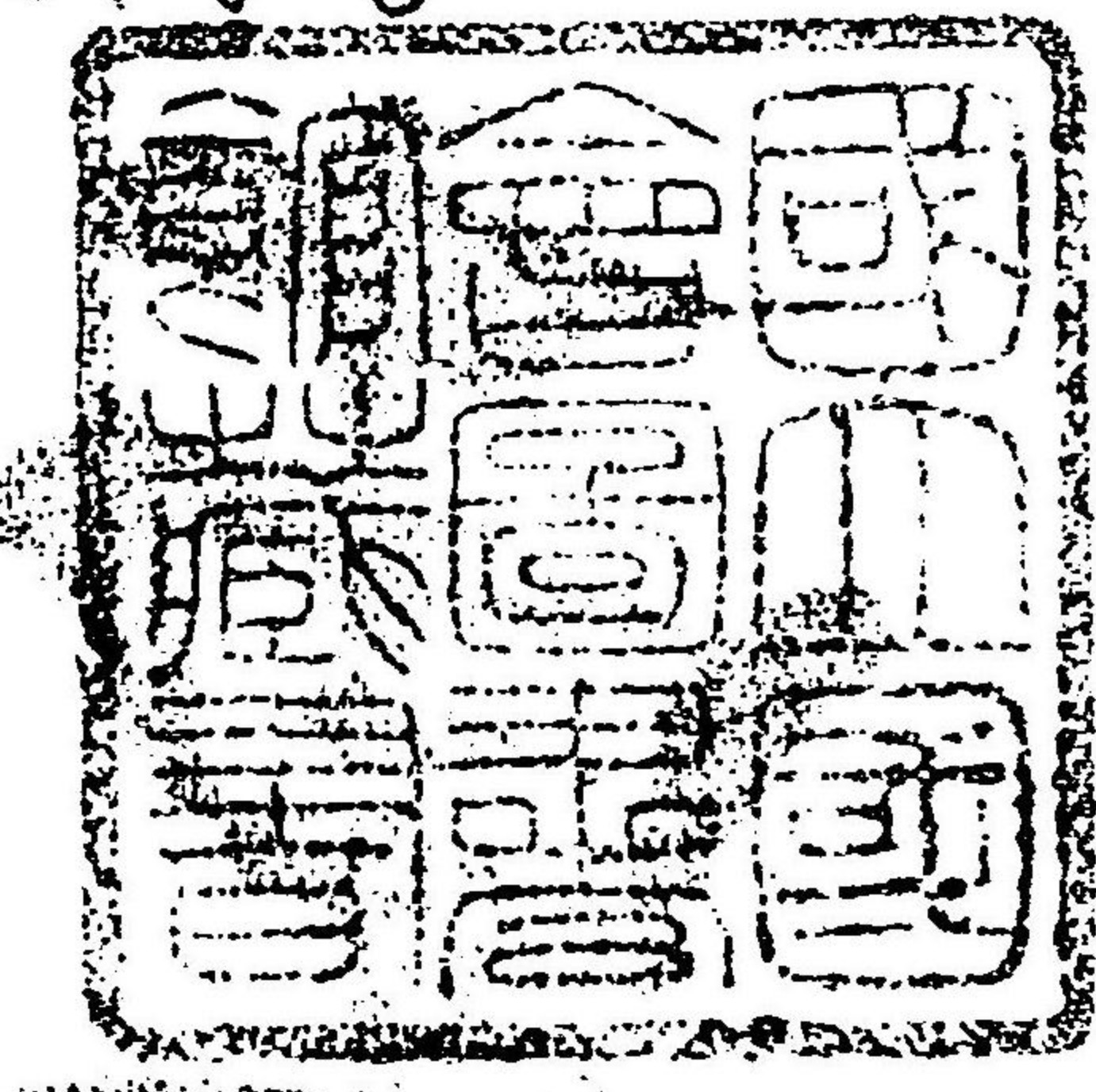
尚武社藏版



北村三郎著

東洋策

319.2
Ki298t



東洋策

目次

總論第一

國是第二

進取主義

國是第三

退嬰主義

形勢第四

英國ノ東洋政略

形勢第五

獨國ノ東洋政略

形勢第六

32544

露國ノ東洋政略

形勢第七

佛國ノ東洋政略

兵勢第八

歐洲強國ノ兵備及我國ノ兵備一

兵勢第九

歐洲強國ノ兵備及我國ノ兵備二

守禦第十

尙武ノ方向一

守禦第十一

尙武ノ方向二

守禦第十二

南北經營ノ方策

朝鮮ノ處置第十三

日清ノ關係第十四

三國ノ同盟第十五

長計第十六

附錄

露國伯得大帝傳并國勢論

支那始皇帝傳并國勢論

東洋策

日本 北村三郎著

余避暑深山高嶺萬籟絕響處。獨坐三日作東洋策。有雪眉老僧。喟然嘆曰。支那經略之機已逝矣。逝者不可復追。區々議論又何用焉。余乃笑而去。明治二十年八月千山萬水樓主人題。

總論第一

今ハ歐洲ハ兵力主義ハ最絶頂ニ達シタルヲ吾儕ノ讀者諸君ト共ニ之ヲ目撃スル所ナリ蓋シ今日ノ如ク兵力主義ハ歐洲ハ世界ヲ支配スルニ至リシ所以ハモハハ實ニ千八百七十年ノ獨佛戰爭ヲ以テ其濫觴ヲ開キタルモノトス彼ノ獨逸カ千八百七十一年

永井介堂曰
簡潔甚佳

ニアルサスロレーンズノ二州ヲ佛國ヨリ割キタル
ハ固ヨリ當時正當ノ理由ニ本キシモノナリト云フ
ト雖モ千八百七十八年以來ニ歐洲強國カ争テ兵備
ノ擴張ニ從事スルニ至リシハ全ク此割地ノ一舉ニ
原因スルモノナリト云ンモ亦不可ナカルヘシ佛國
ハ再ヒ歐洲一般ノ戦争ヲ開キ其機會ニ乘シテ其割
カレタル所ノ土地ヲ恢復セント欲シ又獨國ハ木杜
傑大元帥ノ明言セラレシカ如ク佛國ヨリ略取シタ
ル所ノ土地ヲ永久ニ保ンカ爲ニハ少クモ五十年ノ
間ハ全國民ヲ常備兵ノ有様ト爲シ置クヲ必要ト
スルヲト爲セリ然ルニ獨國ノ必要ト佛國ノ希望ト
ノ二者ハ實ニ歐洲強國ヲシテ互ニ競ヒ互ニ狂シテ

禮甲子曰東
洋勢日逼矣

以テ陸軍ヲ增加シ海軍ヲ強大ニシ其他各種ノ兵備
ニ莫大ナル金額ヲ費サシムルニ至リシ所以ニシテ
歐洲政事家ノ常ニ之ヲ切言スル所ナリ
此ノ如ク歐洲ノ強國ハ旦夕ノ不測ヲ虞リ禍氛鬱勃
トシテ火山ノ燄々タルカ如クナルニモ拘ラス歐洲
ノ大陸ハ最早罅隙ヲ生セサル限りハ已ニ容易ニ奇
利ヲ博スルヲ得サルヨリ宇内ノ眼光ハ皆亞細亞ノ
半球ニ集リ馬ヲ東洋ノ鯨波ニ飲ンヲ思ハサルナ
ク恰モ陰雲漠々トシテ驟雨ノ將ニ至ントシテ未ダ
至ラサルカ如ク霹靂一天戰機ノ何處ニ發スル乎
知ラサルナリ苟モ東洋ニ國ヲ建ルモノハ長策ヲ畫
シテ以テ國家ノ規模ヲ定ムルニ非スンハ自ラ平和

韃甲子曰如
坐積薪之下
如居弊舟之
中者東洋諸
國也

ヲ保ントスルモ亦得ヘカラサルコト皆今日ノ朝鮮ト
同一轍ノ地位ニ陥ラントス何トナレハ東洋ノ安危
ハ一ニ皆歐洲雄國ノ掌中ニアルヘカレハナリ何ト
ナレハ東洋ノ和戰ハ一ニ皆歐洲雄國ノ掌中ニアル
ヘカレハナリ何トナレハ東洋ノ兵權及商權ハ一ニ
皆歐洲雄國ノ掌中ニアルヘカレハナリ更ニ之ヲ切
言スレハ東洋ノ運命ハ一ニ皆歐洲雄國ノ掌中ニア
リト云ハサルヘカラス嗚呼一タヒ屈シタルノ膝ハ
復タ伸フヘカラス豈慨嘆セサルヘケン歟然ルニ今
日我國朝野ノ論者皆内治ノ一邊ニ齷齪シテ我東洋
ノ安危ハ露英獨佛ノ運動如何ニアルコト知ラス何
ソ其ノ大勢ニ通セサルノ甚シキヤ是レ實ニ吾儕ノ

東洋政略ヲ講シテ以テ世人ノ注意ヲ喚ヒ起サント
欲スル所以ナリ

一默曰。我之來興戎耳。宇宙活機。非奸雄耶蘇其人。則
未易語也。

韃甲子曰。今天下。虎吞狼噬爲日也久矣。履霜堅冰至。
政事家貴知時。豈不信哉。

選甲子曰非
氣宇吞吐宇
宙者則不能
一振東洋又
不能斷行日
露同盟策日
本滿目皆盡
々豈足議此
段之事乎哉

國是第二

進取主義

天○下○ヲ○經○營○ス○ル○者○ハ○氣○宇○以○テ○宇○宙○ヲ○吞○吐○シ○胸○襟○以○
テ○四○海○ヲ○籠○蓋○シ○一○定○不○拔○ノ○長○策○ヲ○立○ツ○以○テ○雄○圖○ヲ○
宇○内○ニ○伸○フ○ル○ニ○足○ル○モ○ナ○リ○夫○レ○渾○圓○球○上○基○布○星
羅○龍○驤○虎○視○其○搏○噬○ヲ○逞○ク○ス○ル○モ○ノ○ア○リ○封○豕○長○蛇○其
侵略ヲ擅ニスルモノアリ或ハ帶甲數千萬以テ武ヲ
四境ニ耀シ或ハ鱗鱗數百以テ威ヲ海上ニ張り互ニ
其雄ヲ争ヒ其長ヲ競フ是レ所謂ル火鏡世界ナリ是
レ所謂ル霹靂乾坤ナリ故ニ國ノ其間ニ在ルモノニ
シテ鎖國孤立以テ萬國ト相通セスンハ則チ己ム苟
モ然ラスンハ何ソ天下ノ勢ヲ制シテ以テ外交ノ長

策ヲ定メサルヲ得ン哉

今日ハ我日本帝國ノ安危休戚ヲ定ムルノ時ナリ其
當外政略ハ宜シク速ニ進取ノ主義ヲ一定シテ以テ
長策ヲ立テサル可カラス凡ソ邦國ノ勢進マサレハ
退キ盛ナラサレハ衰フルハ必然ノ理ニシテ決シテ
永ク中間ニ止マルモノニ非サルナリ是ヲ以テ大人
俊傑ノ士國ニ當ルヤ常ニ不拔ノ規模アリテ以テ偉
業ヲ建テ一定ノ策略アリテ以テ雄圖ヲ開キ宇内ヲ
併呑スルニ足ルモノナリ露國ハ千五百年代ニアリ
テハ歐北ノ一侯國ノミ彼得大帝豪傑ノ姿ヲ以テ宏
濶遠大ノ策略ヲ運ラシ西瑞典ヲ侵シ南波斯ヲ制シ
天下ヲ鞭笞シテ以テ一定不拔ノ長策ヲ立テ後主世

々祖業ヲ繼キ今年一境ヲ擴メ明年一地ヲ略シ星霜
二百年間ニ於テ疆土先キ二十倍シ氣八荒ヲ蓋ヒ志
六合ヲ吞ミ全地球ヲ舉テ以テ其囊括席捲ノ心ヲ鑿
カシムルニ足ラス其中央亞細亞ニ於ケルヤ回鶻ノ
諸州蠶食殆ント盡キントス其阿富汗ヲ併セ印度ヲ
吞ム想フニ應ニ遠キニ非サル可シ其東封ニ於ケル
ヤ恰モ無人ノ境ヲ行クカ如ク既往十餘年間黑龍江
ノ東ヲ清國ヨリ得テ戍ヲ圖們江口ニ屯シ之ヲ經シ
之ヲ營シ餘力ヲ遺サ、ルモノ茲ニ年アリ而シテ一
要港ヲ東洋ニ覓メテ海軍碇泊所ト爲サントスル
已ニ今日ニ始マルニ非ス左レハ其支那ヲ割キ朝鮮
ニ據ルモ亦其宿謀ナリ夫レ獨ノ如キ佛ノ如キ填ノ

橋香居曰看
破宇内大勢
眼力可恐

如キ伊ノ如キハ固ヨリ韓魏趙楚諸國ニシテ地大ニ
兵強シト雖ヒ勢等シク力敵ス英ノ如キハ天時ヲ得
テ宇内ノ商權ヲ掌握セシト雖ヒ一定ノ長策ニ據ル
テ能ハス但タ露國ハ大地ノ北ニ彌亘シ獨リ其全局
ヲ以テ其勝ヲ制シ籠蓋シテ之ヲ取ル他ナシ露國英
雄ノ主大勢ヲ達觀シテ以テ進取ハ策ヲ立テ萬世ヲ
通視シテ一定ノ略ニ出ツ故ニ地形人種兵謀戰略瞭
乎トシテ掌ヲ指スカ如ク然シテ後チ雄圖遠略次第
ニ之ヲ畫ス全局ハ勢固ヨリ我握中ノ物ナルヘケレ
ハナリ今ヤ露國一意ニ好チ獨佛ニ結ヒ以テ齊楚ノ
交ヲ離間シ遠交近攻ノ謀ヲ藉リテ以テ隣國ヲ併吞
シ繼絶興滅ノ義ヲ假ルテ以テ聲威ヲ震フ其勢南ス

レハ印度ヲ圖ラサルヲ得ス然レモ英尙ホ強シ未ダ
俄カニ乘シ易カラズ故ニ顧テ中央亞細亞ニ垂涎シ
其蠶食ノ慾ヲ肆ニシ印度ノ一隅幾ント犬牙交々接
ス若シ露國ニシテ能ク英國ノ外府ヲ取ンニハ英國
ハ退キテ三島ニ蟄居セサルヲ得ス獨佛モ是ニ至テ
爭ント欲スト雖モ其レ得ヘケン哉東スレハ支那ヲ
窺ハサルヲ得ス然レモ支那尙ホ大ナリ未ダ輕シク
乘スヘカラス故ニ西伯利亞ヨリ蒙古各部ニ出テ
其經路ヲ逞クス又其朝鮮一帯ヲ覬覦スルニ至テハ
既ニ多歲ヲ歷タリ若シ露國ニシテ支那ノ外府ヲ取
ランニハ亞洲ノ咽喉ヲ扼シテ以テ天下ノ利權ヲ執
ルニ足レリ日清モ是ニ至テ爭ントスト雖モ其レ得

ヘケン哉此二策ニシテ成ルヲアラシムニハ寔ニ宇内
ノ一大變勢ナリト云ハサル可カラス蓋シ天下ヲ經
營スルモノハ志氣恢廓必ス能ク大勢ニ觀テ以テ不
拔ノ規模ヲ立テ一定ノ策略ヲ振フ故ニ變生シテ驚
カス事驟テ動カス百折千挫スレモ終ニ成功ニ歸ス
ル所以ノ者ハ其由ル所變化測ラレズト雖モ其趨ク
所終始一定シテ未ダ嘗テ間斷アラサルヘケレハナ
リ露國ハ常ニ不拔ノ業アリテ以テ規模ヲ拓開シ一
定ノ略アリテ以テ天下ヲ經營ス故ニ雄圖ヲ宇内ニ
伸フルニ足ルモノナリ
蓋シ亞細亞ノ大勢ヲ以テ之ヲ考フルニ我日本帝國
ハ進テ東洋振興ノ責ニ任セサルヘカラス支那ノ國

タルヤ版圖ノ廣キ人民ノ多キ實ニ我ニ幾千倍ス而シテ其國土ハ天產人造ノ物品ニ富ミ商賣貿易ノ便利ハ河海良港ニ乏シカラズ殊ニ揚子江黄河ノ二大河ハ深ク内地ニ入テ萬里ノ長灣ト爲ル今後殖産商賣ノ富源ハ混々トシテ竭クルヲナカルヘシ之ヲシテ現在ノ版圖ト人民トヲ以テ一箇團圓ノ富強ヲ致サシムレハ其威カノ及フ所ハ以テ露國東南侵略ハ勢ヲ挫クニ足ルヘキナリ然リト雖也今日ノ支那帝國ハ之ヲ人種ヨリ觀ルモ之ヲ歴史ヨリ觀ルモ進取ノ武國ニ非スシテ保守ノ文國タリ故ニ純然我國進取尙武ノ人民ト共ニ並立スルヲ能ハサルヤ必セリ試ニ今日清國ノ政事家ヲ觀ルニ洪水橫流ノ中ニ端

橋香居曰是則所以東洋未振也

拱シ恬然トシテ東洋ノ安危休戚ヲ顧ニス小智曲慮以テ宇宙ヲ達觀スルヲ能ハス豈我國ト共ニ合同一致シテ東洋ノ政略ヲ決スルヲ得ノ哉畢竟兩國ハ陽ニ親和共同ノ狀ヲ示スト雖也陰ニ軌轢仇敵ノ心ヲ存スルモノナリ此時ニ當テ兩國軌轢仇敵ノ心ヲシテ一時ニ止ムヲ得セシムヘキカ將タ永遠融解ス可カラサルニ至ルカ其之ヲ判斷スルノ機會ハ豈尋常平和的手段ノ能クスヘキ所ナラン哉然ラスシテ徒ニ清國ト共ニ連衡シテ東洋ノ大計ヲ圖ラントスルハ是レ机上ノ空言ニシテ大人俊傑ノ宜シク爲ス可キ所ニ非ス蓋シ將來亞細亞ノ大陸ニ於テ一面ニハ清英獨ノ同盟ト爲リ一面ニハ日露佛ノ同盟トナ

秘甲子曰勢也者不可干而逆乎而逆

ルハ必至ノ勢ナルヘシ其故如何トナレハ露國ハ常ニ印度及支那ヲ蠶食スルノ舉動アルカ爲ニ英國ハ清國政府カ望ム所ニ依リ之ト共ニ同盟ヲ結ヒ我彼ヲ扶ケ彼レモ亦我ヲ扶クルノ策ヲ取リテ以テ相互ノ安全ヲ謀ラントシ獨逸モ亦タ東洋ニ一ノ海軍港ヲ覓メント欲シ日清兩國ヲ視テ自然ノ同盟國ト爲シ以テ親和ヲ買フ時タリ此三國ハ一方ノ同盟ト爲リ露佛ノ兩國ハ共ニ合縱シテ以テ雄圖ヲ東洋ニ伸ントシ我國モ亦タ進取ノ主義ヲ決シテ以テ大有爲ノ略ヲ振ントセハ勢ヒ露佛ト合セサルヲ得ス乃チ此三國ハ一方ノ同盟ト爲ルヘケレハナリ但シ外交ノ政略ハ各國共ニ權變ヨリ成リ利害ノ如何ニ由リ

之雖成必衰

テ昨日ノ仇敵モ今日ノ同盟ト爲リ今日ノ同盟モ明日ノ仇敵トナル是レ必ス然リト謂フニアラスト雖モ其全局ノ勢ヲ以テ之ヲ論スレハ露佛及ヒ我日本ハ自然同盟セサルヲ得サルノ勢アリトス我已ニ進取ノ主義ヲ一定シ八州ヲ以テ城ト爲シ滄海ヲ以テ池ト爲シ天下ノ全形ニ因テ以テ戰守ノ略ヲ爲シ北荒ヲ拓開シ南溟ヲ併吞シ隣國ヨリ始メ風濤千里ノ外ニ及ホシ英豪ヲ駕シ奇傑ヲ馳セ時ヲ相テ弛張シ勢ヲ度テ進退シ益々進取ノ策ヲ擴ムレハ以テ東洋ヲ一振シテ盟主ノ權ヲ執ルニ足ル可シ夫レ天下ハ大事ナリ決シテ區々タル議論ノ能ク之ヲ斡旋スル所ニ非ス必ス先ツ神斷鬼察一世ヲ鼓舞シ

魏甲子曰若
轉圓石於千
仞之山者勢
也

テ以テ天下ノ耳目ヲ一新スルニ非スノハ能ハス是
レ其大本領ハ我皇上ニ在ル而已

一默曰。傳最上機。提第一着。

魏甲子曰。頂門眼照世。胸中海吞川。霹靂一斷。東洋策
定矣。

魏甲子曰世
有編墨之論
而挫英雄志
士之氣

國是第三

退嬰主義

論者曰ク日本ノ當外政略ハ宜シク退嬰自守ヲ以テ
百世ノ銘符ト爲スヘシ此義ヤ既ニ輿論ノ歸スル所
アルカ如シ決シテ之ヲ變スヘカラス我日本ハ天與
ノ形勝アリ力ヲ費スナ少フシテ守ル所ハ則チ固シ
故ニ我將來ノ事ハ宜シク首トシテ之ヲ内事ノ進歩
ニ向ケ人心ヲ和ケ殖産ノ力ヲ獎勵スルヨリシテ他
日ニ結果スルノ富強ハ遽ニ兵備ヲ増加スルニ愈レ
リト曰ク嗟乎哉此ノ如キ說ハ吾儕之ヲ庸才迂儒時
務ヲ知ラサルノ說ト云フ夫レ善ク天下ヲ經營スル
者ハ其策略必ス以テ天下ニ先チ其形勢亦必ス以テ

天下ニ先ツナリ退嬰自守ハ之ヲ鎖國孤立ノ舊日本ニ施スヘク決シテ之ヲ各國雄飛ノ新世界ニ施ス可ラス今我國ハ彈丸黑子ノ地ヲ以テ萬國弱肉強食ノ衝ニ當リ專ラ民ト共ニ休息セント欲ス時務ヲ知ラサルモ亦甚シカラスヤ歐洲諸國日ニ干戈ヲ尋キ吞併チ事トシ虎視龍驤以テ東洋ニ逼ル我且ツ一日ハ安寢ヲ得ントスルモ得ヘカラサルハ亦勢ハ觀易キモノニ非スヤ夫レ日升ラサレハ辰キ月盈タサレハ虧ク國隆ナラサレハ替フルハ必至ノ理ナリ我日本ハ地形海表ニ屹立シ環國皆海ニシテ水路四通八達セリ而シテ沃野數千里人口數千萬鷹揚雄飛ノ便萬國ニ冠シ進取ノ長策ヲ振フニ足ルヘシ是ヲ以テ古

ヨリ明主雄將ノ規模ヲ拓開スルヤ三韓ヲ征シ肅慎ヲ鎮メ任那ヲ撫シ渤海ニ通シ絕域ヲ視ルト四境ノ如ク海上ヲ視ルト坦途ノ如ク尙武ノ氣六合ニ充溢セサルナシ其英圖雄略以テ萬世ヲ炳耀スルニ足レリ今ヤ堂々タル尙武ノ國ヲ以テ却テ理論ニ拘泥シ苟且ニ安ンシ進取ノ策ヲ立ルト能ハス自ラ鼠壤蟻封ノ中ニ退守セント欲ス亦羞ツヘカラスヤ夫レ國會ヲ開キ憲法ヲ定ムルモノハ内治ヲ整フル所以ノ具ニシテ天下ノ策略ヲ立ツル所以ニ非ス是故ニ進取ノ主義ヲ決シテ以テ一定ノ略ヲ立テント欲セハ必ス先ツ庸才迂儒ノ說ヲ一掃セサルヘカラス論者曰ク海國ノ憂患ハ版圖ヲ陸地ノ敵境ニ開クヨ

禮甲子曰日本唯存彈丸黑子小天地面已其愧

リ大ナルハナシ夫レ日本ノ亞細亞大陸ニ於ケルハ即チ英國ノ歐洲大陸ニ於ケルト均シ日本ヲ目シテ大東ノ英國ト爲スモ之カ爲メナリ昔シ英國ノ版圖ヲ歐洲ノ陸地ニ開クヤ快戰ヲ行ハサルニ非ス雄名ヲ博フセサルニ非ス然レモ英國チシテ百餘年間寧日ナク得ル所ハ失フ所チ償フニ足ラサラシメタルハ職トシテ陸地兼有ノ咎ニ由ラサルハナシト曰シ一切ノ事物正面的アリ反面的アリ能ク其兩面ヲ叩キテ利害ノ源ヲ究メ成敗ノ數ヲ審ニスルニ非スハ決シテ其正鵠ヲ得ヘカラス夫レ英國ハ百餘年來終始保守退嬰ノ主義ヲ株守シテ絶テ進取一定ノ略ナク土耳其ノ存亡ヲ以テ自國ノ存亡ト爲シ亞富汗

英人亦甚矣

禮甲子曰所謂習俗之見者

ノ安危ヲ以テ印度ノ安危ト爲シ終天汲々一籌モ出ルヲ能ハス雄斷埶士禮立ノ如キモ一世ノ勳業徒ニ一時露國ノ鋒ヲ口舌ノ間ニ挫クニ過キス何ソ其ノ規模ノ小ナルヤ是ヲ以テ之ヲ觀レハ英國チシテ百餘年間寧日ナク得ル所ハ失フ所チ償フニ足ラサラシメタルハ實ニ退嬰自守ノ主義ヲ株守シ或ハ雄斷ニ出テ或ハ姑息ニ出テ、以テ一定ノ長策ニ據ルヲ能ハサルコアリテ陸地兼有ノ咎ニアラサルナリ若シ假リニ論者ノ說ノ如ク英國チシテ初メヨリ退嬰自守ノ主義ヲ執ラシメハ英國ハ斷シテ字内ノ光榮ヲ保チ字内ノ商權ヲ握ルヲ能ハサリシナルヘシ今日英國ノ尙ホ能ク東洋ニ餘權ヲ振ツ所以ノモノハ

實ニ亦往昔英國政事家ハ進取ハ主義ヲ執テ以テ規
 摸ヲ拓開シタルハ餘功ニ由ルモノナリ嗚呼吾儕ハ
 英國衰勢ノ由テ來ル所以ヲ推シテ益々保守退嬰主
 義ノ長計ヲ誤ルヲ知ルナリ今日若シ日本ヲシテ大
 東ノ英國ヲラシメントセハ論者何ソ早ク進取ノ主
 義ヲ決シテ世界到處ニ版圖ヲ開クヲ英國ノ如ク世
 界到處ニ海港ヲ有スルヲ英國ノ如ク世界到處ニ商
 權ヲ振フヲ英國ノ如クナラシメサル乎論者ノ如キ
 ハ徒ニ一面ヲ視テ兩面ヲ視サルモノト云フヘシ此
 ノ如キ輩眼孔豆ノ如シ豈吾儕ト共ニ進取ノ長計ヲ
 談スルニ足ラン哉
 論者又曰ク今日清國ノ急務ハ鉄道電信ヲ架設シテ

露國ノ來侵ニ備フルニアリ英獨諸國ハ力ヲ盡シテ
 之ヲ忠告セシニモ拘ラス清國政府ハ猶ホ優遊不斷
 ノ有様ナリ同國ノ内地ニ是等ノ業ヲ起スハ獨リ清
 國ノ爲メノミナラス蓋シ亦日本ノ利害ナリ我國ノ
 志一ヒ定マルノ後ハ力ヲ盡シテ之ヲモ誘導スヘシ
 彼ヲシテ愈々厚ク我ヲ信セシムルニ至レハ朝鮮ヲ
 處スルカ如キハ固ヨリ易々タルノミ若シ我援ヲ清
 國ニ假シテ以テ朝鮮ヲ保安スルヲ能クスヘクンハ
 我ハ力ヲ盡シテ清國ヲ援助スルモ可ナリ是等ハ抑
 モ事ノ末ナル者ナリ唯露國ノ東侵ハ日清ノ興亡ニ
 係リ利害ノ關スル所實ニ至重ナルヲ深く思フヘキ
 ノミト曰ク天下ニ勢アリ機アリ勢ヲ知ラサレハ機

魏甲子曰
本亦然時事

ヲ知ルヲ能ハス機ヲ知ラサレハ時務ヲ知ルヲ能ハ
ス時務ヲ知ラサルモハハ俊傑ニ非ス今露國百世ノ
餘烈ヲ繼キ形勝ニ據リテ八荒ヲ駕馭シ長策ヲ振テ
六合ヲ包舉セントシ吞噬ヲ逞クスルヲ數百年今ヤ
益々東南ニ向テ馬首ヲ進ム朝鮮ノ危急旦夕ニ逼レ
リ而シテ之ト其衡ヲ争ント欲ス豈區々タル蜻蛉州
中ニ離齷シ以テ之ト其輸贏ヲ決スルヲ得ンヤ夫レ
清國ノ腐敗既ニ久シ其政事家身ヲ以テ天下ニ先チ
示スニ大有爲ノ志ヲ以テセス勵スニ嘗膽臥薪ノ誠
ヲ以テセス虛文ニ汲々トシテ宇内ヲ達觀シ大勢ヲ
通視スルヲ能ハス何ソ其ノ衰ヘタルヤ今我國ハ此
ノ如キ愚弱腐敗ノ國ト共ニ同盟シテ以テ百戰日ニ

魏甲子曰
笑

魏甲子曰時

國ヲ辟クノ露國ニ抗セントスル耶其得失固ヨリ識
者ヲ待タスシテ知ルモノアラン假令ヒ清國政府ヲ
シテ十八省ニ通シテ鉄道ヲ敷設シ而シテ英國及ヒ
日本共ニ之ヲ援クルモ規模立タス策略定ラス退嬰
自ラ守ルノ同國ヲ以テ何ソ露國ノ鋒ニ當ルヘケン
哉夫レ支那帝國愛親覺羅氏ノ退嬰自ラ守ルモノハ
是レ自ラ亡フルヲ招クモノナリ我國ハ宜シク屑々
トシテ婦人ノ仁ニ拘泥セス露國ト共ニ同盟シテ之
ヲ經略スヘシ何トナレハ東洋積弱ノ弊ハ到底百戰
ヲ以テ之ヲ一新スルニ非サレハ恢復スルヲ能ハサ
レハナリ露國ノ東侵ハ勢ナリ清國ノ腐敗ハ自ラ亡
ルノ機ナリ我國カ進取ノ主義ヲ決シテ一定ノ長策

ニ據リ以テ東洋ヲ一振スルハ失フヘカラサルノ機
會ナリ論者カ徒ニ天下ノ形ヲ皮相シテ天下ノ機ヲ
察セズ區々トシテ亡國ニ同キ朝鮮ヲ以テ助クヘシ
ト爲シ腐敗自ラ振ハサルノ清國ヲ以テ我同盟ト爲
スヘシト云フカ如キハ何ソ其惑ヘルノ甚シキヤ夫
レ天下ハ活機ナリ政事家時ヲ見テ變ニ處ス其弛張
用捨固ヨリ權衡アリテ存ス要スルニ機ニ投スルニ
在ルノミ何ソ一邊ニ拘泥スヘケンヤ
我既ニ進取ノ方向ヲ一定シテ日露同盟ノ長策ニ出
ツレハ將來東洋振興ノ計ニ於テ其第一關門トナリ
是ヨリ當ニ一新世紀ヲ亞細亞大陸ニ啓クノ濫觴ト
爲ルヘシ夫レ善ク天下ヲ經營スルモノハ志氣恢廓

極香居曰一
讀不破迂腐
者膽耳余亦
瞠若于後

一世ヲ鼓舞シ從容トシテ天下ノ大事ニ處シテ餘リ
アルモノハ人ヲ制スル者ナリ見ル所目前ノ事ニ過
キス事多クハ預想ノ外ニ出テ天下ヲ胸中ニ運ス
能ハサルモノハ人ニ制セラル者ナリ規模也者ト
ハ此志ヲ立ツル所以ナリ策略也者トハ此志ニ應ス
ル所以ナリ形勢也者トハ此志ヲ達スル所以ナリ汎
然トシテ之ヲ議シ漫然トシテ之ヲ行ヒ卒然トシテ
之ヲ罷メ趨起躊躇一定セサルモノハ何ソ其ニ長策
ヲ語ルニ足ラン哉吾儕故ニ日ク進取ノ主義ヲ決シ
テ以テ一定ノ略ヲ立テント欲セハ必ス先ツ庸才迂
儒ノ說ヲ一掃セサルヘカラスト
一獸曰。所謂登崑崙之山。決河源之水者。

超甲子曰。喝破滿眼婦人論去。雄絕又快絕。

形勢第四

英國ノ東洋政略

橘香居曰英
國東洋政略
悉日吞印度
攻支那其鋒
銳實不可當
然志滿氣竭
今則不如露
獨也

天下ハ活機ナリ宇内形勢ノ變遷豈窮リアラン哉今
日歐洲ニ於テ強國ト稱セラレ、モノハ露獨英佛及
ヒ壤ノ五國ナリトス而シテ露國ノ東洋政略ハ終始
經略ノ主義ヲ一定シテ百折千挫スト雖也決シテ之
ヲ變セス要スルニ其志ヲ東洋ニ逞クスルニアラサ
レハ止マサルモノナリ英國ノ政略ハ清國ト共ニ攻
守相依リ防禦保守ノ主義ヲ執テ以テ露國東侵ノ勢
ヲ防ントスルモノナリ佛國ハ常ニ其政体ノ變動ニ
由テ一定ノ政略ニ出ルヲ能ハスト雖也英國ノ專權
ヲ殺カン爲メニ露ト共ニ同盟シテ奇利ヲ東洋ニ獲

題 塚 士 禮 立 肖 像

隻手收来蓋世功
蝸牛角上稱英雄
將斯駕御大英術
不出露相深算中
越海日塚士禮立先
生智則智矣然是井
上伯的之俊材也
鋤雲日深算改作籠
絡如何



ントスルモノナリ獨國ハ佛露ノ間ニ夾マリ其兩國
チシテ同盟セサラシムルヲ以テ秘訣ト爲シ權リニ
露國ノ歡心ヲ買フト雖モ東洋政略ニ於テハ寧ロ清
國ニ結ヒテ以テ雄圖ヲ東洋ニ伸ントスルモノナリ
但シ換國ハ未ダ勢力ヲ東洋ニ有セス吾儕モ亦之ヲ
論セサルノミ
抑モ英國カ清國ト攻守相共ニスルノ同盟ヲ締結シ
タルノ基礎ハ往年天津ニ於テ清佛ノ間ニ和議條約
ノ調印濟ト爲リタルト同時ニ清國總稅務司ロバ
ト、ハイト氏ノ盡力ニ依リテ之ヲ整頓シタルモノナ
リロバイト、ハイト氏ハ最初專ラ清國ノ爲メニ又自
己ノ職務ノ爲メニ清佛ノ間ニ和議ヲ成就スルノ功

ヲ立テント欲シ兩國ノ間ニ周旋スルニ當テ又其本
國即チ英國ト露國ノ間ニ亞富汗事件ノ破裂シテ戰
闘旦夕ニ逼ルノ光景ヲ現出シタリ故ニ英國以爲ラ
ク露國ト戰端ヲ開クニ當リ土耳其ト清國ソ同盟ヲ
得テ東西兩面ヨリ露國ヲ脅スルハ露國ヲシテ中央
亞細亞ニ其欲ヲ逞クスルヲ得サラシムヘシト然
ルニ當時英國カ清國ノ同盟ヲ結ントスルニ方リテ
妨碍トナルヘキモノハ清佛ノ戰爭ナリキ其故如何
トナレハ當時英國ニシテ清國ト攻守相共ニスルノ
同盟ヲ締結セン乎英國ハ固ヨリ清國ヲ助ケ佛國ト
戰ハサルヲ得サルヘケレハナリ然レモ清國ヲ助ケ
テ佛國ト戰フハ斷シテ英國ノ爲サント欲スル所ニ

非ルナリ是故ニ英國政府ハロバート、ハート氏ニ向テ其本國ノ爲メニ專ラ清佛ヲシテ相和セシムル事ニ尽力スヘシト命シタルニ依リハート氏ハ愈々平和ノ目的ヲ達セント欲シ其事ニ斡旋シ且ツ之ト同時ニ英國ハ同氏ヲシテ清國政府ニ向ヒ露國ノ侵略ヲ防ントスルノ目的ヲ以テ相互ノ間ニ竊ニ同盟ヲ締結セント欲スルノ意ヲ勸告セシメタリ然ルニ當時佛軍俄ニ敗ヲ取リテ諒山ヨリ退キ花利ノ内閣モ亦忽然トシテ倒レハート氏カ盡力中ナリシ同盟モ如何ナルヘキ乎佛軍ハ必スヤ此一敗ノ復讎ヲ爲スニアラサレハ清國ト和スルヲ能ハサルヘシト予想シタルニモ拘ラス清佛間ノ平和商議ハ速ニ整頓セ

リ此等ノ事情ニ由リテ之ヲ察スルモ當時英國カ東洋政略ノ爲メニ清佛ノ戰爭ヲ止メント欲シ其苦慮盡力ノ非常ナリシヲ知ル可キナリ此ノ如ク英國ハ平素ノ希望ヲ達シ清佛ヲシテ相和セシメ其政略上ノ妨碍ヲ排去シ得タルト同時ニ露國ニ反對スルノ同盟ニ於テ清國ヲシテ左袒セシムルノ目的ヲ達シタルモノナリ又清國政府ハ大ニ英國ノ秘密同盟ヲ恃ミ露國トノ境界ニ向テハ清軍ヲ備へ且ツ海軍ノ如キハ英國ト連合シテ露國ニ對スルノ防禦ヲ嚴密ニスルノ計畫ニシテ殊ニ英國ハ清國ノ外國市場ニ募集セントスル所ノ公債ニ助力ヲ與ヘテ益々其戎備ヲ整備セシムルノ決心ナリ吾人之ヲ聞ク曩キニ

馮中子曰李
氏大言往々
欺人亦是東
洋政事家常
態

清佛間ニ平和條約ノ整頓シハテノートル氏カ李鴻
章ヲ招請シテ宴會ヲ催フセシ席上ニ於テ李氏ハ露
國ノ領事官某ニ向ヒ高聲ニテ之ニ語テ曰ク今後露
國ヨリ如何ナル境界委員ヲ派出スルモ我清國ノ同
委員ハ直ニ之ニ接シ相互ノ國境ヲ畫定スルニ於テ
毫モ差支ヘアルトナシト此事ヲ以テスルモ清國カ
英國ノ同盟ニ深ク自ラ恃ム所アルヲ知ルヘキナリ
又現ニ李氏ハ若シ露國ニシテ朝鮮ニ來攻スルカ如
キトアレハ則チ直ニ露國ト戰端ヲ開クヘシトノ言
ヲ發セリ然ラハ則チ若シ露人ニシテ亞富汗ノ近境
ヲ侵略シ進テ清境ニ逼リ(第一)又ハ伊犁ヲ襲ヒ(第二)
又ハ朝鮮ヲ脅ス(第三)等ノ事アレハ清國ハ英國ト共

馮甲子曰英
不可以恃露
亦不可以恃
況佛乎况獨
乎天下可以

ニ連衡スヘク英國モ亦東洋ニ於ケル利害ノ爲メニ
清國ヲ援助スヘシ而シテ英國ハ此防禦同盟ヲ以テ
清佛兩國ヲ制シテ歐洲ニ於テハ英國ノ權勢ヲ張ルニ足
スルニ足り東洋ニ於テハ英國ノ權勢ヲ張ルニ足
ヘシト爲スモノナリ(以上論旨)倫敦支那「エキスブレ」
ニノ係(所載)
論者曰ク英國ハ清國ト攻守ノ同盟ヲ結ヒテ以テ露
國ノ東侵ヲ防カントスルヤ實ニ此ノ如シ此勢アル
ヲ願ミス輕シク我日本カ英國ヲ敵トシテ以テ露國
ト結ントスルハ豈危險ニ非ス乎ト曰ク凡ソ國ニ貴
ム所ハモハハ一定ハ畧ヲ立ツルニアリ一定ハ畧ヲ
立ツルハ宇内ハ大勢ヲ達觀スルニアリ苟モ我ニシ

テ一定ノ畧ヲ立テ、以テ進取ノ方向ヲ決スル以上、ハ英ト結フモ露ト結フモ亦我操縦ニアリ然ラスシテ大勢ヲ達觀スルヲ能ハス目前ノ事ニ動搖シ反覆一ナラサルカ如キハ豈政事家ト爲スニ足ラン哉夫レ清國ノ腐敗其由テ來ルヤ久シ亶ニ今日ニ始マルニ非サルナリ夫レ清國カ頻リニ英國ノ秘密同盟ニ頼ム所アルハ疑ヲ容レサル所ナリト雖也今日英國ノ名ハ以テ宇内各國ヲシテ恐怖セシムルノ實ナキヲ奈何センヤ他日清國カ巨額ノ軍費ヲ要スヘキ戰爭ヲナスニ臨ミテ其兵隊其軍艦ノ應援ヲ英國ニ望ミテ徒爲ニ屬スヘキハ恰モ千八百七十年ノ土耳其ノ如クナルヘシ況ンヤ英國ハ現時歐洲ニ於テモ中

央亞細亞ニ於テモ頗ル多事ニ苦シミ慌惶狼狽スルハ狀アルハ掩フベカラサルハ實際ナレハ良シヤ同盟シテ清國ヲ助クルノ意アルハ斷シテ其餘力ナカニルヘキニ於テチヤ豈啻ニ是レノミナランヤ英國ハ己ノ強大ヲ恃ミ無勢力ナル朝鮮及佛國ト和戰ノ決ニ躊躇スルノ清國又ハ今日將ニ立憲國タラントスル日本ノ困難ヲモ顧ミス且ツ公法ニ違乖スルモ恬トシテ知ラサルモノ、如ク突然數隻ノ軍艦ヲ織裝シテ巨文島ヲ掠奪シタルカ如キ何ソ其舉動ノ鄙シキヤ英國ノ歐洲諸國ノ背ニ立チ姦計ヲ回ラシ彼ノ眼中殆ント清國日本ナキカ如クナルハ概チ此類ナリ然ルニ未ダ幾ナラサルニ露國カ朝鮮ニ於テ他ノ

三十八
嶋嶼又ハ他ノ一部分ヲ占據スヘシト清國ニ逼リタ
ルニ由リ英國ハ清國ニシテ巨文島ヲ英國ニ許諾ス
ルニ於テハ露國政府モ亦此例ニ倣ヒテ清國政府ヲ
脅迫シテ永興港又ハ彼ノラザレフ港ヲ占領スルニ
至ラント必然ナルヲ恐レタルカ故ニ終ニ巨文島ノ
守兵ヲ撤回スルニ至レリ其舉動ノ輕躁ナル豈眞成
ナル我良友トスルニ足ラン哉「シヤパン、メール」新聞
記者曰ク英國政府カ巨文島ヲ退居セシメタルハ清
韓ノ力ヨリハ寧ロ自國海軍省ノ力其多キニ居レリ
其主旨ハ巨文島ヲ防禦センニハシブラルタル若ク
ハマルタノ如ク第一等ノ砲臺ヲ建築セサルヘカラ
ス爲メニ海軍省カ永遠ニ之ヲ占據スルニ異議アレ

繩甲子曰英
國海上王耳
故知有洋海
而不知有大
陸況海上王
之名陸地乎

ハナリト果シテ然ラハ其一定ノ略ニ出ルヲ能ハス
汎々トシテ定マル所アラサルヤ知ルヘキノ思此
ニ及ハス我日本カ徒ニ眼前ノ勢ニ蔽ハレ一意英國
ト結ヒ清國ヲ助ケ以テ露國ヲ防カントスルハ何ソ
ヤ
英國ハ東洋ニ於ケル政略ハ著ルク退歩シタルヲ
ハ識者ノ夙ニ之ヲ察スル所ナリ蓋シ英國東洋ノ
港ハ香港ヲ以テ唯一ノ要港ト爲スト雖モ殊ニ知
ラス今日東洋貿易ノ中心ハ次第ニ東方ニ遷ルコ
隨テ香港ノ如キハ決シテ十分ニ貿易攻守ノ大權
ヲ握ルニ足ラサルヲ况シヤ香港ノ地勢ハ決シ
テ恃テ以テ東洋ノ軍港炭港ト爲スヘカラサルコ

於、テ、チ、ヤ、又、況、ン、ヤ、香、港、ハ、防、禦、ハ、微、弱、ナ、ル、ハ、決、シ、
テ、東、洋、ニ、於、テ、英、國、ノ、地、位、ヲ、重、カ、ラ、シ、ム、ル、ニ、足、ラ、
サ、ル、ニ、於、テ、チ、ヤ、然、レ、モ、今、回、加、奈、陀、線、路、ノ、開、ケ、タ、
リ、シ、ハ、蓋、シ、此、ニ、見、ル、所、ア、リ、テ、一、面、ニ、ハ、以、テ、戰、時、
ニ、平、時、ニ、歐、亞、ノ、聯、絡、ヲ、シ、テ、絶、タ、シ、メ、ス、一、面、ニ、ハ、
以、テ、東、洋、ノ、航、權、ヲ、一、變、シ、テ、猶、ホ、永、ク、貿、易、ノ、利、ヲ、
制、セ、ン、ト、ス、ル、ニ、出、テ、タル、者、ナル、ヘ、シ、流、石、ニ、商、賣、
ニ、巧、ナル、英、國、タ、ケ、ア、リ、テ、其、舉、動、ノ、銳、敏、ナル、將、來、
東、洋、ノ、航、路、ヲ、一、變、シ、テ、以、テ、俄、ニ、舊、來、ノ、面、目、ヲ、一、
新、ナ、ラ、シ、ム、ル、ヤ、疑、ヲ、容、レ、サル、所、ナル、ヘ、シ、尤、モ、全、
局、ノ、大、勢、ヲ、達、觀、シ、テ、之、レ、カ、論、ヲ、立、ル、キ、ハ、吾、儕、ハ、
切、ニ、此、ニ、感、ナ、キ、ヲ、能、ハ、サル、モ、ノ、ア、リ、何、ソ、ヤ、試、ニ、

想、ヘ、英、國、ハ、果、シ、テ、東、洋、航、路、ノ、變、化、ト、共、ニ、一、大、英、
斷、ヲ、以、テ、太、平、洋、ノ、艦、隊、ヲ、改、良、シ、「ヴァンクロー」ヨ、
リ、東、洋、諸、港、ニ、通、ス、ル、ノ、線、路、ヲ、防、禦、ス、ル、コ、足、ル、所、
ノ、力、ヲ、示、ス、乎、否、試、ニ、想、ヘ、英、國、ハ、露、國、カ、印、度、境、上、
ニ、於、テ、一、層、活、潑、ナル、運、動、ヲ、試、ン、ト、ス、ル、ノ、恐、アル、
モ、一、齊、ニ、カ、チ、東、洋、ノ、防、禦、ニ、盡、ス、ヲ、得、ヘ、キ、乎、否、
試、ニ、想、ヘ、近、來、英、國、規、模、ノ、蠲、蠲、ナル、内、訌、ノ、紛、擾、セ、
ル、能、ク、印、度、ノ、防、衛、ニ、モ、太、平、洋、ノ、防、衛、ニ、モ、一、時、ニ、
之、ヲ、整、ヒ、一、時、ニ、之、ヲ、全、ク、ス、ル、ノ、實、力、ア、リ、乎、否、吾、
儕、モ、英、國、ノ、東、洋、政、畧、ニ、心、ヲ、用、フ、ル、ノ、深、キ、ニ、感、ス、
ル、ヲ、ナ、キ、ニ、非、ス、ト、雖、モ、全、局、ノ、大、勢、ヲ、達、觀、ス、レ、ハ、
英、國、ハ、衰、運、ニ、傾、キ、タ、リ、ト、斷、言、ス、ル、ヲ、敢、テ、ス、ヘ、キ、

秘甲子曰整
其正振其奇
謂之達將三
千八百万人
中果有此人
耶

ナリ左レハ吾儕ハ英國ヲ以テ勇壯進取ノ青年ト
爲サスシテ老憊保守ノ老人ト爲サ、ルヲ得ス凡
ソ事ヲ成スハ活潑剛毅ニアリ衰弱退歩ハ事ヲ敗
ルノ本ノミ青年元氣ノ徒ト共ニ謀ルヘシ老憊羸
ノ者ト共ニ事ヲ爲スヘカラス是レ吾儕ノ英國政
畧ノ老練敏捷ナルニモ拘ラス常ニ之ヲ取ルヲチ
敢テセスシテ寧ロ露國ト攻守ノ同盟ヲ共ニスル
ニ若カスト云フ所以ナリ
一默曰。百尺竿頭退一步。可以評今日英國焉。
秘甲子曰。英人何足恃。吾唯恃三千八百万人而已。

橘香居曰獨
國東洋政畧
反英佛專在
買歡心收商
利不在經略
土地在收拾
利益故利盡
則不來豈足
恃乎

形勢第五

獨國ノ東洋政畧

歐洲現時ノ勢ヲ視ルニ獨逸ノ威望獨リ列國ニ重シ
然レモ歐洲ニ於テ獨國ノ政畧ハ露佛同盟ノ道ヲ遮
斷スルニ在リト雖モ其害視スル所ノモノ同シケレ
ハ防患ノ策自ラ相依ルハ自然ノ勢ナリ獨國ニシテ
佛國ト信友タラントスルモ素ヨリ得ヘカラサルノ
事ナリ露國ト相親ムハ舊好ヲ保續スルノ理ニシテ
別ニ難事ナキカ如シト雖モ土壤隣接ノ國ニアリテ
ハ我レノ利トスル所ハ彼ノ害トナリ此ノ得ル所ハ
彼ノ失フ所トナル故ニ此場合ニシテ強テ他國ノ歡
心ヲ買ハントスレハ我意見ヲ挫ケサルヘカラス是

題俾士麥肖像

一聲帟嘯猛風起
千尺龍吟激雨飛
吞吐歐洲天地了
黃金鑄出鏡牛機
越海曰善識鏡牛者



レ豈雄國ノ爲スヘキ事ナラン哉夫レ獨國ハ維廉帝
ノ仁武不殺ナル首相俾士麥ノ英明雄斷ナル將軍木
杜傑ノ謀謨深沈ナル宇内ニ敵ナキノ國タリ又其雄
武ハ獅子ノ全威ヲ震テ歐洲ヲ轟カシ富力モ亦年ヲ
追テ加ハル所ノ國タリ然レモ露ナリ佛ナリ獨力ヲ
以テ妄ニ獨國ヲ攻メサルヲ以テ獨國ノ最モ恐ル、
所ハ實ニ露佛同盟ハ機會及ヒ影響ニアリ假令獨國
ノ強ヲ以テスト雖モ孤立シテ敵ニ二隣ニ接セハ其
危殆自ラ云フヘカラサルモノアラン凡ソ強國ハ國
家ノ無事安全ハ自ラ頼ムニ足ルヘキノ威力アリテ
始メテ語ルヘキナリ故ニ獨國タル者ハ常ニ一朝ノ
變露佛相夾ミテ獨ニ事アルノ備無カルヘカラス獨

國ニシテ之カ備ヲナスヘキ同患ノ地ニ在ルモノハ
壤ヲ除キテ又他アルヲナシ是レ前年獨壤兩帝ノ會
合ヲ要シ爾後繼續シテ之ヲ行フ所以ナリ然リト雖
モ獨國將來ハ同盟ハ歐洲ニアラズシテ東洋ニアリ
是レ迂儒ノ驚ク所ニシテ識者ノ能ク之ヲ知ル所ナ
リ
獨國ハ平素海上帝王ノ位置ヲ占メシコトヲ慾望シ
直ニ赤道直下ヲ飛過シテ北部ニ侵入シ漸ク威力ヲ
東洋ニ振ハシテ期セリ蓋シ露英兩國ノ朝鮮海ニ
於テ樞要ノ土地ヲ占領センヲ勉メタルハ千八百
六十一年(我文久元年清曆咸豐十一年)以來ノ事ナリ
同年中朝鮮海ノ中央ニ位スル對馬島ノ領主ハ戰略

上ニ樞要ナルタル、ムラ灣ヲ露人ニ割與セシカ八月
 間露人ハ其國旗ヲ灣頭ニ飄シ哥爾威艦「ボサツド」ニ
 ツク「號」ヲ灣中ニ繫キ海岸ニハ倉庫兵營工場各一個
 所ト長官ノ住家一個所トヲ建築シ隣村「ヒラサ」村迄
 ノ道路ヲ修繕シテ石ヲ敷ク等此新領地ヲ以テ恰モ
 我國土ノ如ク看做シタリ此風聞ノ英京倫敦ニ達ス
 ルヤ英國ノ弗列曼艦「アクターオン」號ハ其實否ヲ糾
 サシカ爲ニ同灣ニ入りシニ果シテ實事ナリキ是ニ
 於テ露英ノ間ニ外交上ノ談判ヲ開キシカ其結局遂
 ニ露人ハ對馬島ヨリ撤去スル「トナレリ爾來二十
 年ニシテ露國ハ須格別賚布將軍カ佛京巴里ノ演說
 ニ因由スル獨露兩國ノ葛藤アリ此事件ノ將ニ切迫

セントスルヤ獨國ハ各新聞紙ハ頻ニ對馬島ヲ占領
 シ海軍碇泊所ト爲スノ利ヲ説キテ政府ニ勸告スル
 所アリシカ此時千八百六十八年我明治元年日本國
 ハ政事上ノ變革アリ從來ノ封建制度ヲ廢セシニ依
 リ千八百六十一年ニ於ケルカ如ク其目的ヲ達スル
 「ト容易ナラサル」ニ至リシカハ其企圖ヲ實行セサリ
 キ千八百八十一年中(我明治四年)英國カ該地方ニ向
 ヒ委員ヲ派遣セシニ當リテ露國ハ政略上實ニ大關
 係ヲ及ホスヘキノ事件ナリトシ香港ヨリ軍艦一艘
 ヲ蝦夷島ニ送リタリ是レ其斯克那形ノ軍艦「アロ
 ト」號カ沈沒シタル場所ヲ搜索シ且ツ石炭貯藏所ト
 ナスヘキ一嶋ヲ占領シ開戦ノ機ニ臨ミテハ日本海

襪甲子曰所

口ヲ封鎖セントスルノ目的ニ出テタリ又該軍艦ハ
 蝦夷西岸ノ瀨棚灣奥尻島及ヒ石崎岬ニ於ケル一小
 灣ヲ測量スヘキ訓令ヲ帶ヒタリ(此等ノ地ハ浦鹽斯
 德港ニ對シテ横ハル者ナリ)此時英國士官ノ文官ニ
 偽粧セル者一名開市場ヲ設置スルヲ口實トシテ
 此等ノ灣島中ノ一ヲ日本政府ニ請求スヘキ委任ヲ
 英政府ニ受ケタリキ這回英國ハ日本海口ヲ封鎖セ
 シカ爲ニ巨文島ヲ占領シタレハ露國ハ茲ニ至テ始
 メテ往時英國士官ノ舉動ヲ想起セリト云フ(事載セ
 ノ「イニエ、フライエ、プ」獨國カ對馬島ヲ以テ其海軍碇泊
 レ「ツセ」新紙ニアリ)獨國カ對馬島ヲ以テ其海軍碇泊
 所ト爲サントスルノ企圖アルヤ否ハ姑ク之ヲ置キ
 近來獨國カ自ラ清國ヲ稱シテ天然ハ同盟國トナシ

謂動如獅子者

親和ヲ求メ以テ勢カチ東洋ニ得ントスルヤ亦一日
 ニ非ルナリ獨國政府ハ將校下士ヲ撰テ清國常備兵
 ノ教導訓練ヲ司ラシメ滿州部ノ人民ヲ募集シテ常
 備兵ヲ増置セシメントチ勉ムル亦數年ナリトス又
 其築城科士ハ滿州内部軍略上樞要ノ地ヲ相テ堡壘
 ヲ設クルカ如キ亦何ソ其舉動ノ活潑ナルヤ現ニ第
 一「サンチヤカオ」黑龍江畔「ミハイロセメ」ノ「フスカヤ」
 村ト「ハ、ロー」フカ「府」トノ中央ニ在リ第二「ウダヌ」ス
 ラウヤンスカ「灣」ニ相對ス其他滿州内部奉天府ヨリ
 吉林城ニ至ル大道ヲ修築セリ此道路ハ吉林府ニ至
 テ二道ニ分レ一ハ寧古塔府ニ達ス一ハ松花江畔三
 姓府ニ至ル管ニ之ノミナラズ獨國航海者ハ先キニ

清國政府カ英國ニ注文シテ新ニ製造シタル軍艦ノ
艦長トナリ或ハ機關師トナリ商業家ハ數年來特ニ
清國政府ノ請求ニ應シ小銃大砲等ヲ輸送シ工業家
ハ武庫司並ニ小銃彈丸藥製造所ヲ建築シ益々利益
ヲ東洋ニ得ントスルニ汲々タリ且ツ清國ハ佛國ト
東京ノ戰役後軍ニ陸軍ヲ改革スルノ必要ヲ覺知シ
タルト同時ニ海軍ノ勢力ヲ擴張セサルヘカラサル
コトヲ覺知シタリ何トナレハ清佛ノ戰爭ニ清國ノ
海軍ハ巨多ノ船艦ヲ有スルニモ拘ハラス沿海ノ港
灣ヲ封鎖スルカ爲メ各地ニ散在スル佛國ノ軍艦ニ
對シ一回ノ攻撃ヲ試ミタルトナク佛艦ノ爲ニ攻撃
セラレタル時ノ狀況ヲ以テ徵スルニ足ルヘケレハ

ナリ蓋シ此ノ如ク其微弱ナル所以ノ者ハ主トシテ
海軍力ヲ合一スル規律ナキニ原因セリ從來清國ノ
海軍ハ直隸福建等ノ總督ノ手ニ分轄セシムルモノ
ニシテ各自其管理法ヲ異ニセリ此等ノ弊害ヲ除カ
ンカ爲ニ一昨年上諭ヲ以テ北京ニ海軍省ヲ設置シ
醇親王ヲ其總裁ニ任シ李鴻章以下二三大臣ヲ理事
ニ任定セリ但シ此改革ハ李鴻章ノ統率セシ艦隊ヨ
リ着手シ漸次他ノ艦隊ニ及ホスト云フ而シテ該改
革案ハ專ラ總督李鴻章ノ心匠ニ出ル者ニシテ同總
督ハ從來獨國ヲ信愛スル人ナルカ故ニ清國ノ海軍
ヲ改革スルヤ必ス獨國ノ海軍制ナルヘシ又嚮ニ清
國カ獨國「ウルカン」造船所ニ托シテ製造シタル三艘

ノ甲鐵艦ハ清國海軍ノ基礎ヲ据付ケタルモノト云フヘシ聞ク所ニ據レハ清國政府ハ又「ウルカン」製造所ヘ二艘ノ甲鐵艦ト若干ノ水雷艇ヲ注文セシト云フ
 事實載セテ拉里阿諾布ノ一島識記露國此ニ由テ
 之ヲ觀レハ獨國ノ東洋政略上ノ關係ハ遠ク日清兩國ニ屬スル大洋中邊ニ及フト云フモ亦可ナルヘシ
 嗚呼獨國政略ノ敏捷ナル實ニ此ノ如シトスル也
 論者曰ク露國東洋經略ノ鋒ヲ挫クハ獨英ト日清ト交々相合スルニアルノミ夫レ獨コシテ露ト合スレハ英ノ勢愈々孤ニシテ斷シテ一國ノ力ヲ以テ露獨ノ兩大國ニ當ルヘカラス然レモ是レ露國ノ利ニシテ獨國ノ利ニハ非ス何トナレハ地勢ニ據ルモ露能

ク獨チ併スヘシト雖モ獨能ク露チ併スヲ能ハサルヘケレハナリ是レ豈明良ナル獨國君相ノ爲スヘキ事ナラン哉是レ由テ之ヲ觀レハ今日ノ計ヲ爲スハ東洋ニ於テ獨英ノ相合シテ以テ露國東侵ノ鋒ヲ挫クニ若クハナシ清國政府カ獨國ヲ以テ其同盟者ト爲スハ勢ヲ知ルモノト云フヘシ我日本モ近年頗ル獨國ト親愛ナル傾向アルハ疑チ容レサル所ナリト雖モ吾人ハ早ク其外交政略ノ主義ヲ一定セサルヲ怪ムニ堪ヘサルナリ豈我ヲ以テ清國ニ愧ツヘケン乎ト曰ク天下ノ事一議論ハ能ク濟ス所ニ非ス必スヤ宇内ノ理勢ヲ視ルト遠ク天下ノ幾微ヲ察スルト深ク識ハ以テ全局ヲ達觀スルニ足リ量ハ以テ人

心ヲ籠單スルニアラソンハ能ハス夫レ佛國カ十五年來大ニ其軍備ヲ擴張スルモノハ時機ノ到來スルヲ見レハ速ニ獨國ト戰爭ヲ試ムルノ目的タルヤ太
 タ明白ナリトス佛國ハ嘗ニ目下一戰ニ應スルノ準備アリト信スルノミナラス現時歐洲ノ危殆ナル形勢ニ就テ察スレハ其獨國ヲ攻撃スル前ニ他ノ葛藤ノ落着ヲ待タハ或ハ其同盟ヲ得ルノ場合アルヘシト信スルモノナリ且ツ獨國ト雖モ佛國ト雖モ共ニ今日ノ軍備ヲ維持スルカ爲メニ莫大ノ軍費ヲ支出スルハ勢之ヲ難ノスル所ナリ佛國ハ富饒ナルモ猶ホ之ヲ難ンス况ンヤ獨國ハ富饒ハ佛國ニ讓ルニ於テチヤ然レハトテ兩國相共ニ其軍備ヲ減少スルコ

ト得サルヲ以テ理財ノ衰替ヲ避クルカ爲メニモ寧ロ戰ハサルヘカラサルナリ又近來獨塊露三帝國ノ交誼ヲ繫ク事ヲ謀ルト雖モ三國ノ關係ハ未タ全ク親密ナリトセス尤モ其事情ニ通スルノ人タリト雖モ其同盟ノ事實ヲ確言スルヲ得スト云ヘリ但シ露國ノ先帝歷山太第二世ノ代ニ於テ露佛兩國ノ間ニ存シタル親密ハ今帝ニ至テ大ニ其薄キヲ覺ユルハ天下ノ知ル所タリ又近時獨國カ獨塊露ニ對シテ公ニ依違ノ地位ニ立タルヨリ獨塊兩國ノ交誼ハ復々往
 日ノ如クナラサルハ是レモ亦世人ノ推思スル所タリ然レハ獨國ハ佛國トハ關係ヲ定メサル間ニ於テハ一齊ニ力ヲ集メテ東洋ニ雄ヲ稱スルコト能ハサル

五十六
へシ況ンヤ東洋ニ於テ獨人カ稍力ヲ得タルハ近來
ノ事ニシテ未タ海軍港ノ根據タモ之レ無キニ於テ
オヤ又況ンヤ獨國君相一ヒ瞑目セハ歐洲ノ關繫或
ハ多事ニ至リ難シト云フ可カラサルニ於テオヤ又
況ンヤ日本カ輕シク日後ノ利害ヲ熟慮セスシテ獨
國ト結フモ必スシモ其利害ヲ同クセサルヘキニ於
テオヤ夫レ我國ハ獨ナリ英ナリ最モ宜シク其親愛
ヲ盡シ其好誼ヲ表セサルヘカラスト雖田進取ノ主
義ヲ一定シテ雄略ヲ立テ以テ東洋ヲ一振セント欲
セハ唯須ラク大勢ヲ達觀シ利害ヲ深察スヘシ夫レ
鷲鳥ノ將ニ擊ントスルヤ必ス先ツ其形ヲ匿シ猛虎
ノ將ニ噬ントスルヤ必ス先ツ其牙ヲ藏ス善ク天下

五十七
チ用ユルモノハ雷霆ヲ閉發ノ際ニ轟カシ霜雪ヲ炎
熱ノ日ニ飛ハシ神機妙略猶ホ驟雨ノ截然トシテ來
リ截然トシテ去ルカ如ク人ヲシテ其端倪ヲ知ラサ
ラシムルモノニアラサレハ能ハス獨國ハ豈此ノ段
ノ事ヲ談スルニ足ラン哉若シ夫レ自ラ蔽フ所ナク
自ラ恐ル、コナク斷行スヘキハ直ニ斷行シ勇往ス
ヘキハ直ニ勇往スヘシト云フニ至テハ則チ吾儕未
タ之ヲ知ラサルナリ但シ清國カ獨國ト共ニ同盟ス
ルハ或ハ利害ヲ同クスル所アルヘシト雖ヒ我日本
ハ清英ノ同盟ニモ加ハルヲ肯セサル所ナレハ豈妄
ニ獨國ト結ヒテ百年ノ長計ヲ誤ルヘケン哉嗚呼我
論者カ深ク利害ノ輕重得失ノ深淺如何ヲ揣ラス小

橋香居曰好
議論々々々

智曲慮自ラ輕ンスルモノハ抑モ何ノ心ソヤ
 一默曰。雲龍之所能使爲靈也。俾士鐵漢。失其所憑依。
 大陸形勢果如何哉。
 褪甲子曰。開張威猛時。突出雄兵百萬。俾士鐵漢不死。
 則大盜不止。

形勢第六

露國ノ東洋政略

橘杏居曰最
 可恐者露國
 東洋政畧也
 操寸奪尺駭
 々東下如決
 瓶水不以一
 大英斷當之
 則東洋者俎
 上肉耳

英雄ノ恃テ以テ天下ヲ經營スル所以ノモノハ斯民
 ナ愚弱ニシテ以テ國ヲ興スノ謂ニ非ス乃チ乘ス可
 ラサルノ勢アルヲ恃メハナリ英雄ノ恃テ以テ一世
 ナ把持スル所以ノ者ハ理論ヲ粉飾シテ以テ國ヲ立
 ツルノ謂ニ非ス乃チ覘ヲ可ラサルノ治アルヲ恃メ
 ハナリ是ヲ以テ必ス先ツ其大体ヲ立テ内ニ覘フ可
 カラサルノ治アリテ外ニ乘ス可カラサルノ勢アリ
 然シテ後チ英略雄斷次第ニ之ヲ施シ實ヲ以テ虛ヲ
 取り有チ以テ無チ取り鑑ヲ以テ銖ヲ稱ルカ如シ故
 ニ常ニ人ヲ致シテ人ニ致サレヌ勢ヲ制シテ勢ニ制

題伯得大帝肖像

直得龍蛇變幻時
 活機轉處電光遲
 笑佗大膽秦呂政
 徒築長城禦小兒
 越海日蒙恬征胡八
 十萬之兵與今日露
 填疆上數一萬之兵
 何所相異城寨亦
 万里長城何所相異



稷甲子曰須
 是有作略有
 器關

セラレス以テ雄圖ヲ伸フルニ足ル者ナリ吾儕東西
 古今ノ史ヲ閱シ曠然トシテ長思シ悚然トシテ寒心
 セサルヲ得サルモノハ露西亞帝國ナリトス蓋シ千
 七百年以來露國ハ四方ヲ經略シテ境域日ニ廣ク勢
 カ月ニ加ハリ隱然トシテ宇内ヲ併呑スルノ志アリ
 歐洲露アレハ縱横自在或ハ土耳其ヲ攻メ或ハ巴幹
 半島ノ地ヲ侵シ亞洲變アレハ颯馳電掣西ニシテ印
 度ヲ窺ヒ東ニシテ支那ニ向ヒ尺ヲ得レハ則チ尺ヲ
 取り寸ヲ得レハ則チ寸ヲ取り破竹ノ勢已ニ成ルニ
 及ヘハ刃ヲ迎テ立ロニ解ケサルハナシ何トナレハ
 内ハ規フ可ラサルノ治アリテ以テ守ルヲ固ケレハ
 外ハ以テ雄圖ヲ海外ニ伸フルニ足レハナリ夫レ然

退甲子曰露
國進取之機
吞吐在心縱
掄在手百年
如一日一日
如百年真英
雄國哉

シテ後チ天下ヲ舉ケテ能ク我ニ敵スルモノナシ以
テ囊括席捲ノ心ヲ逞クス可シ今日露國カ支那及ヒ
朝鮮ニ試ントスルノ手段ハ如何ナル策ニ出ツ可キ
乎必ス應ニ二百年來其經驗履行シタル所ノ得意ノ
政略ヲ以テスルニ相違ナカル可キナリ
抑モ露國ノ最モ併略ヲ肆ニシテ四方ニ其版圖ヲ廣
メシハ千七百六十二年(寶曆十)ヨリ同九十六年(寬政八)ニ
至ル女帝カザリナ二世ノ時ニアリカザリナ帝ハ其
即位後甲賀士山邊ノ土蠻ヲ擊テ之ヲ山中ニ驅逐シ
其ノ地ヲ并セ終ニ甲賀山ノ南部ニ於テ黑海ト加斯
比奄海ノ間ニ在ル殷富ノ地方「シオルチヤ」ニ於テ波
斯ト土國ト互ニ其壤地ヲ争フテ見テ以爲ラク此ノ

機乘ス可シト乃チ露國慣用ノ手段ヲ施シ乃チ甲ヲ助ケ乙ヲ伐チ其報酬トシテ遂ニシオルヲヤチ占有スルヲ得タリカザリナ帝ハ斯ク獨リ亞細亞地方ニ其併吞ヲ肆ニスルノミナラス歐洲地方ニ向テモ尙ホ蠶食ヲ逞クセリ又波蘭國君位繼襲ノ事ヨリ干戈日チ尋テ國勢萎靡地ニ墜ルヲ視テ直ニ其國是ニ干與シテ自己ノ威虐ヲ逞クセリ土耳其ハ露國ノ權勢駭々トシテ日ニ盛ナルヲ視テ既ニ波蘭ヲシテ露領タラシムルキハ露ト其境域ヲ直接スルニ由リ大ニ侵略ヲ蒙ンイチ恐レ露國ヨリ侵略ヲ蒙リシイアルヲ以テ口實トシ遂ニ露國ト戰端ヲ開クニ至レリ終ニ「カイナリシ」ノ和議ニ因テ土國ハ充分ニ其權勢

ヲ殺カレテ其局ヲ了ルニ至レリ（露土和議ハ千七百レヨリ千八百四十九年久里米戰前ハルタリ）此和議ニ因テ露國ハ常ニ自由航海權タルヲキリスノ通行權及ヒ戰艦一艘ヲ此海邊ニ準備シ置クノ特權トヲ併セテアリアフタガングケルチ及キンホルンノ數州ヲ領シタリキ是ニ於テ露帝ハ「ボク」河畔ニ至ルマテ其境域ヲ廣メ且ツ甲賀士山近傍ノカハルタノ君權ヲ得ル而已ナラス土帝ヲシテ哥里米汗ノ獨立ヲ允可シテ支配スルノ權ヲ失ハシムルニ至レリ是レ露國後世ヲ利スルノ大ナル者ナリ

千七百十六年（安永五年）露帝ハ黑海ヨリ加斯比奄海ニ至ル中間殆ント三十個ノ城砦ヲ築造シテ此ノ地方ヲ

警備シ爾後一二年ヲ經或ハ幣物ヲ贈テ歡心ヲ買ヒ
 或ハ威力ヲ以テ之ヲ脅迫シテ甲賀士山南部ニ於テ
 ル土帝ニ隸屬セル耶蘇教ヲ懲愆シ尋テ波斯ノ藩屬
 タル許多ノ小酋長ヲ臣屬セシメタリ是ヨリ先キニ
 「カイナリシ」ノ和議ニ因テ哥里米半嶋ハ土國ノ羈
 絆ヲ脫シ獨立シタルヲ以テ露帝ハ直ニ其慣用ノ手
 段ヲ施シ兵力ヲ以テ哥里米汗ヲ保護センヲ謀レ
 リ又露國カ君士坦丁堡ヲ占領セントスルノ意ハ當
 時既ニ世ノ公認スル所ニシテ適々露土ノ間ニ葛藤
 ヲ生シタルニ際シ露國兵ヲ分チ一方ハ甲賀士山地
 方ニ向テ侵入シ一方ハ土耳其人ニ抗シテ哥里米汗
 ヲ保護スルヲ名トシ該地ニ軍兵ヲ遣ハシ汗ヲ廢遂

シテ哥里米ヲ強奪シ又其獨立權ヲ保守セント欲シ
 テ露ニ抗セシ所ノ韃靼貴族ヲ擊テ之ヲ殲セリ又露
 帝ハ土耳其ノ藩部ウイラチヤ及モルタウ井ヤノ君
 主ヲ誑惑シテ之ニ保護者ヲラシメテ陳述シ且ツパ
 ルガリヤ及ヒセルヴ井ヤノ耶蘇教ノ民ヲ鼓動シテ
 土帝ニ背叛センヲ促シ嘗テ土帝ト締結スル所ノ
 條約ニ乖キ益々南方ニ向ヒテ呑噬ヲ逞クセリ蓋シ
 露帝ハ千七百八十三年天明三年ニ方リ土國ト通商條約
 ヲ交換セシ迄ハ哥里米ヲ略有スルノ宿志ヲ失ハス
 既ニシテ土耳其ノ國境ニ接スル「デニール」河口ニ
 「ケイルソン」府ヲ建テ千七百八十七年露帝親ラ此ノ
 新都ニ赴キタリ是ニ於テ露土兩國ノ間ニ復タ戰端

チ開キ遂ニ一千七百九十二年(寛政四年)「ゼスシー」ノ和議
 ニ由テ土國ハ「ホグ」及ヒ「デコーベル」兩間ノ州郡ヲ剝
 ラレ且ツ「シオルチャ」及ヒ近州ノ特權ヲ失フノミナ
 ラス他ノ地方ニ於テ有スル所ノ特權ヲ併セテ露國
 ニ附與スルニ至レリ
 露帝ハ南方ニ向テ漸ク蠶食ヲ肆ニスルハ、ミナラス
 西域ニ向テ亦益々其國境ヲ擴メ、タリ當時波蘭國ハ
 内憂外患相踵キ國勢日ニ傾頽シ千七百七十二年(安
 元年)聖彼得堡ノ條約ニ由テ露普埃ノ三國同盟シテ大
 ニ其地ヲ削奪セリ此條約ニ依テ露ハ戶口一百五十
 万ヲ有セル廣大ヲ得尋テ千七百九十三年(寛政五年)第二
 ノ分割ニ由テリ「フニヤ」及「ホルニヤ」ノ中心ニ至ルマ

繩甲子曰所
 謂吞吐百川
 者

テ其境域ヲ廣メタリ爾後再ヒ波蘭人ノ叛亂ニ乘シ
 露普埃ノ三國ハ互ニ同盟シテ之ヲ壓服シ遂ニ千七
 百九十五年ノ第三ノ分割ニ因テ波蘭國ハ歐洲ノ地
 圖ニ於テ其形跡ヲ失フニ至レリ千七百九十六年(文
 年八)ニ至ル保羅及ヒ亞歷山ニ帝任位ノ間露國カ波斯
 國ヲ蠶食セシ土地ハ更ニ土國ヨリ強奪セシ者ヨリ
 多シトス顧フニ保羅帝カ波斯ヲ經テ印度ノ通路ト
 大奴皮河邊ハ州郡ヲ經テ君士坦丁堡ニ通路ヲ開シ
 ト欲シタルハ、ニ大望ハ兼テ先帝カザリナノ遺志ヲ
 紹述スル者ナリ黑海ト加斯比奄海トニ於ケル此等
 ノ州郡ノ通路ヲ開カハ露國ニ於テ裨益スル所少ナ
 シトセス一千九百年代ノ初世ノ間ハ露國ハ波斯國

ト構取シ其地ヲ蠶食スル最モ廣大ナリトスカザリ
 ナ帝崩御ノ後公然露土兩國ト兵ヲ構ヘサリシハ纒
 一二歳ナレモ其間露國ハ尙ホモルタヴ井ヤウイラ
 ケヤ及セルヴ井ヤ地方ニ向テ頻ニ譎計ヲ逞クシ遂
 ニ千八百六年(文)至リ上帝ハ露國ニ向テ戰ヲ起
 シ僅ニ露ノ呑噬ヲ免ル、ヲ得タリ當時歐洲ハ拿破
 翁ノ跳梁跋扈ニ因テ各國ノ政綱紊亂スル間ニシテ
 既ニ千八百四年ニハ露土ノ間親懇ノ盟約將ニ成ラ
 ントセシカ適々上帝ハ露帝カ要求セシ密約中ニ於
 テ後年容易ナラサル大事件ヲ提起ス可キ條款ニ心
 ヲ注キタリ其ノ條款ハ即土ノ臣民中希臘教ヲ奉ス
 ル者ハ露帝ノ直轄ニ歸セシメ其保護ヲ受ケシム可

シトアリ此要求ハ上帝ノ肯ンセサル所ナレハ和議
 爲ニ破レテ遂ニ開戰スルニ至レリ當時土耳其ノ國
 歩ハ頗ル艱難ニシテ埃及セリヤモルタヴ井ヤ及其
 他ノ諸藩部ハ露ノ教唆ニ因リテ動モスレハ上帝ニ
 向テ叛亂セントスルノ勢アリ其后「シルシツト」ノ和
 議ニ因テ土國ハ暫時干戈ヲ偃スルヲ得タリシカ
 和議忽チ破テ數年間構戰シ竟ニ千八百十二年(文)
 「デカレト」ノ條約ニ依テ土國ハ廣大ナル土地ト特權
 トヲ露ニ讓與セリ此和議ニ依テ露國ハベツスサラ
 ヒヤ州ヲ得西部ニ向テハ「デニステル」河ヨリ「プリ
 ス」河ニ至ル迄其國境ヲ廣ムルヲ得タリ其他ノ條款
 ハ即チ第一露國ノ商船ヲシテ大奴皮河ヲ自由ニ航

行セシムル事第二、露國ノ軍艦ヲシテ大奴皮河流ニ
 會スル迄「プリス」河ヲ泝ラシムル事第三、此役土帝ニ
 叛キテ露國ヲ應援セシセルヴヰヤ國ニ於テ土帝ノ設置シ
 サル事第四、近時セルヴヰヤ國ニ於テ土帝ノ設置シ
 タル堡砦ヲ破毀スル事はナリ由是觀之土カ露國ノ
 爲ニ掠奪セラレタル權力ハ最も大ナリト謂フ可シ
 又露帝亞歷山太カ北方ニ向ヒタル進路ハ即チ曩ニ
 英露間ニ不和ヲ起セシ瑞典國カ露帝ノ要請ニ應シ
 テ其港ヲ鎖サ、ルヲ名トシテ公然タル宣告モナク
 卒然芬蘭ニ出兵シテ漫ニ瑞典ノ國是ヲ動かサン
 ヲ謀レリ是ニ於テ瑞王ハ直ニ戰ヲ宣告シ鵠蚌相持
 シテ兵亂一二年ニ涉リ遂ニ千八百九十年(文化)ノ和議

秘中子曰大
 義名分英雄
 慕國之一器
 具耳

ニ由リテ瑞國ハ芬蘭其他最モ殷富ナル州郡ト國民
 ノ四分一有餘ノ人口トヲ併セテ露國ニ讓與スルニ
 至レリ露帝ハ斯ク大義名分ハ有無ニモ關セス妄ニ
 隣國ニ亂入シ其國王若シ之レニ抗スルハ常ニ廣
 大ナル土地ヲ削奪シテ其局ヲ結ヘリ
 千八百十五年(文化)拿破翁華德路ニ敗績シテ歐洲
 各國ノ帝王率チ填京維也納ニ會合シ戰乱ノ始末ヲ
 結了セシキ露國ハ從來漫ニ強奪セシ所ノ波蘭芬蘭
 土耳其及ヒ波斯等ノ侵地ヲ悉ク領有スルヲ得タリ
 千八百二十五年露帝亞歷山(アレキサンデル)屠
 露國ハ故ラニ當時土國ニ隸屬シタル希臘國內ニ叛
 亂ヲ醸成シ土國ニ向テ之レカ鎮定ノ加勢ヲ爲サン

一チ陳述セシニ土帝之ヲ固辭シケレハ露帝ハ土國
 カ隣國ノ懇情ヲ拒絶セシテ憤怒シ同時ニ波斯國ヲ
 煽動シテ土耳其ヲ攻撃セシメタリ千八百廿七年(文)
(八)英佛露ノ三大國ハ英京倫敦ニ會盟シ當時土耳其
 ニ隸屬セル土領希臘ノ國是ヲ裁定スル條約ヲ調印
 セリ其後一二月ヲ經テ露國ハ別ニ土國ト會盟シテ
 向ニ英佛ト締結セシ所ノ倫敦ノ條約ハ到底履行ス
 可ラストノ密約ヲ結ヒタリ其後ナバルレイノ海戰
 ニハ英佛露三國ノ軍艦相合シテ大ニ土國ノ海軍ヲ
 破リ尋テ希臘ヲシテ土國ノ軛ヲ解キテ之レヲ獨立
 セシメタルハ凡テ土國ノ羽翼ヲ殺キテ露帝ニ附シ
 タル者ナリ後チ露帝ハ復タ土ト戰テ之ニ勝チ土國

毬甲子曰奸
 雄手高

ハ「アトリアノーブル」ノ和議ニ因テ黑海邊ノ廣大ノ
 要地ト許多ノ特權トヲ失フヘカラス露國ノ軍費ト
 シテ巨額ノ金幣ヲ賠償セン事ヲ約セリ之ト全時ニ
 露國ハ又土耳其「アンケイ」ノ和議ニ因テ波斯國ヨリ
 廣大ノ土地ト加斯比奄海ト甲賀士山ノ地方ヲ監督
 スル權ヲ得ルニ至レリ露國ハ土耳其ヲ欺罔シテ斯
 ク其地ヲ強奪セシニ拘ハラズ適々埃及ノ藩王大舉
 シテ土帝ニ叛クヲ見ハ露帝ハ直ニ其機ニ乘シテ土
 帝ヲ助ケテ之レヲ鎮壓センヲ陳述シタリ遂ニ千
 八百三十三年(天保四年)「キンイル」スケレフシ「」ノ盟約ニ
 因テ露土兩國ハ緩急互ニ相應援センヲ誓ヘリ蓋
 シ露國ヲ應援センヲハ露國ニ於テ大ニ渴望スル所

ナリ此ノ條約中ニ緊要ナル一條ハ密約ヲ加ヘタリ
 其意ニ云ク土國後來「ダルダリス」ノ海峽ヲ密閉シ
 テ露國軍艦ヲ除クノ外ハ一切之ヲ通行セシメサレ
 ハ前ノ戰爭ニ依テ土ヨリ露ニ償還スヘキ負債ヲ支
 消ス可シトナリ
 歐洲各國ノ政府ハ露國カ土耳其ノ保護者トナリテ
 其勢力ハ日ニ月ニ其強大ヲ致スノミナラス「ダルダ
 リス」ノ海峽ヲ閉鎖スルノ密約ヲ結フヲ聞キテ
 大ニ驚愕シ露國ニ向テ討議辨論シ遂ニ千八百四十
 一年（我天保十二年）ニ露土英佛澳ノ五大國ハ倫敦ニ附會シ
 テ二條ノ約ヲ結ヘリ其一條ニ云ク土國治平ノ間ハ
 「ダルダリス」海峽ヲ閉鎖シテ軍艦ハ一切通行セシ

メサル「第二條」ニ曰ク土國ハ此五盟國中ノ一國ヨ
 リ侵撃ヲ蒙ルキハ其内ノ某國ヨリ海軍ノ應援ヲ要
 請スルヲ得セシムル「蓋シ此ノ盟約ハ千八百五十
 三年哥里米ノ開戦ニ方リテ英佛兩國ノ舉止ニ關シ
 最モ緊要ナル影響ヲ有スル者ナリ而シテ露土兩國
 ノ最終和議ハ千八百四十九年「パルタリマン」ノ會盟
 ニシテ此和議ニ因リウイラケア及ヒモルタヴ井ヤ
 ノ紛議ヲ裁定セシカ土帝ハ此等ノ領内ニ於テハ纔
 ニ威權ヲ保存スルノミニシテ其實權ハ全ク露帝ノ
 掌握スル所トナレリ
 千七百七十四年ヨリ千八百十二年（安政三年ヨリ）
 文化九年マテニ
 至ル卅六年間ニ露國カ波蘭及ヒ瑞典ヨリ削奪セル

地ヲ除キ土耳其及ヒ波斯領内ニ於テ蠶食セシ者ヲ
 舉リレハ左ノ如シト云フ哥里米北部地方千七百七
 十四年哥里米千七百八十三年加斯比奄海ト亞東海
 トノ間ニ於ケル地方「オラツサ」府周邊ノ土地千七百
 十二年ベツスサラ、ア州千八百十二年（土國ヨリ削
 シオルヂヤ州千八百年シンクルンヤ州千八百二年
 イメレチヤ州ガンシヤ州千八百三年セーキ州千八
 百五年カラベ州シユルバン州千八百三年加斯比奄
 海邊ノダリス州千八百十二年（波斯ヨリ削奪地）
 千七百廿二年（享保七年）露西亞ノ人口僅ニ一千四百萬ナ
 リシカ千八百五十年（嘉永三年）ニ至テハ六千五百萬ノ巨
 數ニ至レリ且ツ千七百七十二年以來維也納伯林（ド

魏甲子曰打
 成一合乾坤

レスデン「ムニツチ」及ヒ巴黎等ノ諸都ニ向テ露國ノ
 其國境ヲ廣メシ「八百五十英里」其君士坦丁堡ニ近
 接セシ「四百五十英里」ニシテ波蘭ノ都城ハ既ニ其
 ノ有ニ歸セリ蓋シ彼得大帝即位ノ日ニハ其國境ハ
 瑞典ノ都城ヲ距ル「三百英里」ナリシカ今日ハ漸ク
 進テ纔ニ「一二里」ノ距離ニ及ホセリ又亞細亞地方ニ
 向テハ印度及ヒ波蘭ノ都城ニ向テ其地ヲ蠶食セシ
 者殆ント「一千英里」ナリトス實ニ「一千七百七十二年」
 以後露國ノ略有セシ土地ハ廣狹勢力共ニ嘗テ本年
 以往歐洲中ニ於テ領セシ所ノ帝國ヨリハ廣大ナリ
 ト云フ
 以上述フル所ハ「一千八百五十三年露帝尼哥拉士カ

一默日余聞
法助爲火鐵
所既踴
祖甲子曰公
雖甲子曰公
法助爲火鐵
所既踴
一默日余聞
ク大空相怪
士禮立ノ平
和ト榮譽ト
ナシラシテ
伯林ヨリ歸
ルヤ現時改
進黨具蘭維
爾ハ馬豆無
稅港ノ事ヲ
以テ露國ノ
侵畧ヲ防ク

廣大ナル歐羅巴士耳其帝國ノ歐洲ニ遺ス所ノモノ
ヲ併呑セントスルノ準備ヲ爲セシ時ニ至ルマテ露
國進略ノアル所ヲ叙シタルモノトス但シ哥里米ノ
戰ハ歐洲諸國ノ爲ニ大ニ勢力ヲ減殺セラレタリト
雖ヒ一千八百七十年ニ至リ露國ハ佛國ハ敗衄ニ乘
シ英國ニ逼テ巴黎條約中最モ緊要ナル黑海ノ兵備
ヲ制限スルノ條ヲ廢棄セシメタリ將タ又露國ハ伯
林條約ニ頼リテ馬豆ヲ得テ并ニ其ノ近傍ニ散在セ
ル蠻族ヲ臣屬セシメタリ但シ馬豆ハ「ケルチユ」ト「サ
イノ」ト「プト」ノ中間ニ在ル黑海唯一ノ要港タリ然レ
モ諸大國ハ坐シテ露國ノ之レヲ占領スルヲ妨ケス
同地ハ無用ノ地ナリ猶熟セサル葡萄ノ如シトシテ

ニ足ラズト
リ大ニ其不
可ナク難シ
今日保守黨
首領沙利士
伯利ハ其然
ラサレトチ
辯ハテ是ニ
於テ英國陸
軍ハ官カテ
勢ニ審カテ
其測量地圖
等ヲ求メ再
ヒシチ論再
士伯利モ亦
辯事載セリ
ムスニテ
カナリニ呼
英國第十
政界ハ終ニ
露國ノ雄志
足ラサル乎

之レヲ看過シタリキ然ルニ露帝歷山太第三世ハ昨
年露曆六月廿三日ヲ以テ馬豆ノ無稅港タルヲ廢
止セリ是ヨリ先キニ千八百七十八年(我明治十一年)
露土戰爭ノ假リニ局ヲ結フヤ否ヤ露國君相將校ハ
早ク已ニ中央亞細亞土爾機斯坦都爾古曼嘿爾秘等
ハ併呑ニ着手シ千八百八十四年ニ至テ嘿爾秘地方
ハ果シテ露國ノ手ニ陥リ印度ノ背已ニ露人ノ逼ル
所ト爲ル一昨年露英交渉ノ際露國ノ要路ニ立テ最
モ有力ナル政事家ハ一日英國ノ俊士某氏ト會シ其
問ニ答テ曰ク我露國ハ已ムヲ得ス英國ト戰ハサル
可ラズ戰爭ハ到底避ク可ラサル者ナリ今日戰ハサ
レハ明日必ズ戰ハサル可ラズ兵ハ兇器ナリト雖ヒ

何ソ其ノ活
眼進取ノ機
ナキヤ今讀
此文爽然自
失者久之
讓中子曰誰
敢當錄
讓中子曰所
謂抽刀不入
鞘者

橘香居曰中
央亞細亞鐵
道實如封豕
長蛇延長一
里則吞噬東
洋一里者也
作家說真得
吾心哉

戰ハ殘酷ナリト雖其避ク可ラサルヲ奈何センヤ
若シ露國ニシテ今日遲疑シテ戰ハス曲ケテ英國ニ
讓ルアルヘシトスルモ是レ畢竟勝算ノ熟スル日ヲ
俟ツニ過キサルノミトテ政事家ハ更ニ地圖ヲ披キ
テ彼ノ露國中央亞細亞ノ鐵道線ヲ指示シ是レ此ノ
鐵道ハ全ク落成スルハ日ハ歐洲ノ局面ヲ一變スル
ハ日ナル可キナリ抑モ此ノ鐵道ハ故須格別賚布將
軍ノ考案ニ成リ爾來相繼テ之ヲ延長スレハ今一二
年ヲ出スシテ全ク落成スルニ至ル可シ此時ニ當リ
我露國ハ愈將ニ進畧ノ志ヲ伸ントス白熊尙眠ヲハ
姑ク眠ヲ覺サ、ルニ若クハナシト語ラレタリ況ン
ヤ中央ノ鐵道ヲ北方ニ延長シテ西伯利亞ニ向ハシ

メ同所ヨリ又東方ニ延長シテ浦鹽斯德港ニ至ル可
ケレハ此鐵道ノ愈々延長スルニ隨テ東洋ノ形勢ハ
愈々危急ヲ加フ可キニ於テオヤ夫レ露國カ今日中
央亞細亞ヲ經略スルニ數百年來其實驗シタル慣用
ノ手段ヲ以テシ今ヤ益々東南ニ向テ其中央亞細亞
ニ實驗シタル所ノ慣用手手段ヲ運サント欲ス此ノ如
キ形勢ニ當テハ我日本ハ東洋ノ爲メニ之ヲ計ルニ
一日モ露國ニ對スルノ策ヲ定メサル可ラス然ラズ
シテ姑息自ラ處シ柔ニシテ之ヲ養ヒ以テ一日ノ無
事ヲ冀フモノハ無識ノ譏ヲ後世ニ遺スヲ免レサ
ル可キナリ
今誠ニ大勢ニ觀テ一定ノ長策ヲ立テント欲セハ必

秘甲子曰有
可致之勢而
不能致可惜
哉

先ッ斷然トシテ天下ヲ必死ノ地ニ置キ然シテ後
チ進取ノ方向ヲ決スヘシ夫レ攻守一ナリ古人云ハ
スヤ攻者守之機ナリ我苟モ進取ノ勢ヲ天下ニ示ス
キハ露人モ亦必ス我ヲ畏敬スヘシ而シテ後チ不測
ノ斷ヲ振ヒ不測ノ謀ヲ用ヒ一世ノ耳目ヲ震駭シ海
内ノ人心ヲ鼓舞シ威發シテ天下一新シ操縦ノ權我
ニアリ始メテ以テ大有爲ノ略ヲ立ツ可キナリ今ヤ
清國獨英ト秘密ノ同盟ヲ結ヒ以テ朝鮮ニ逼ル嗚呼
彼レ妄ニ自ラ死ヲ送ル是レ實ニ千載一遇ノ機ナリ
此千載一遇ノ機ニ乘シテ以テ我日本ノ光榮ヲ發揚
スルハ今日ヲ舍テ、其レ何レノ時ヲ俟タンヤ是レ
其大計ハ我國カ露ト攻守ノ同盟ヲ結テ以テ卒然ノ

秘甲子曰使
露國無東顧
之憂者日本
第一善先務
也我國人不
知此段之妙
機關局何其
狹也

勢ニ出ルニアリ思爰ニ至ラスシテ銃艦ト云ヒ砲臺
ト云ヒ退嬰自ラ守リ露國炎々ノ勢ヲ防ント欲ス銃
艦未タ整ハス砲臺未タ成ラスシテ疲弊之ニ從ヒ民
心之レニ背ク聖人アリト雖モ其後チ善クスルヲ能
ハス策是ヨリ失ナルハナシ故ニ曰ク今日ノ大計ハ
我日本カ露國ト攻守ノ同盟ヲ結テ以テ率然ノ勢ニ
出ルニ在リ
現今露國外交ノ形勢ハ往古三傑時代ノ羅馬ノ雄
圖ヲ振ヒ一方ニハ該撤兵ニ將トシテ告爾不利顛
ヲ經略シ以テ丁摩斯河畔ニ進ミ一方ニハ潘沛師
ヲ率井テ小亞細亞ヲ劫掠シ以テ幼弗列的河ノ岸
頭ニ凱陣ヲ張リタル際ノ如ク四方八面同時ニ目

覺マシキ運動ヲ試ミ四隣ヲシテ周章狼狽之ニ應
 スルノ暇ナカラシム吾儕之ヲ聞ク此頃露國ノ騎
 兵二大隊ヲ露領波蘭ニ繰リ出シ六大隊ハポーセ
 ンニ對シ三大隊ハガリシヤニ對シ三大隊ハ入瑪
 ニヤニ對シテ陣ヲ取レリ是レ獨塊兩國ノ合併シ
 テ露ヲ攻メンコハ先ツ露領波蘭ヨリ進撃ヲ始ム
 ヘシトノ密計アルニ由レリト云フ又向後ハ步砲
 四聯隊ヲ扼要ノ地ニ備ヘ第五聯隊ヲシトマルニ
 屯駐スルヲ決セリト云フ又内閣ニテハ一切他
 國ノ異同ヲ問ス公然朝鮮ヲ露國ノ保護國ナリト
 宣布シ堅固ナル東洋艦隊ヲ増置シ支那日本ノ近
 海ニ出沒セシムルノ決議アリタリト云ヘリ運動

自在神機變幻ノ外交策ニ富メル露國ノ驚章ハ時
 機ヲ視テ東ニ飛ハン乎將タ西ニ飄ヘラン乎東洋
 ノ志士タル者ハ豈其レ徒ニ空論ヲ事トスルノ秋
 ナラン哉

又西伯利亞大鐵道ノ計畫モ亦是レ我國志士ノ最
 モ深ク注意セサルヘカラサル所ナリ吾儕ノ聞ク
 所ニ據レハ露國カ西伯利亞ヲ開拓セシ以來本年
 ニ至ルマテ漸ク二十箇年即チ明治元年ニ其規模
 チ經營シタル者ニシテ僅々タル星霜ノ間ニ無人
 ノ土地ヲ開拓シ既ニ六十万ノ人口ヲ移シ漸ク
 殖民事業ノ基ヲ固メタリト云フ露國政府ガ常ニ
 財政困難ノ中ニ屹立シ如何ナル艱難ニ遭遇スル

如何ナル危険ニ際會スルヒ寸毫モ之ヲ畏避ス
 ル所ナク其開拓ヲ竣完セシムルニハ今日マテ幾
 何ノ費用ヲ犠牲ニ供シタル乎殆ント其際限ヲ知
 ルヘカラサル事ナルヘシ而シテ今後尙ホ益々其
 事業ヲ擴張シ目的ヲ達セント欲スルノ熱心ナレ
 ハ西伯利亞大鐵道ノ計畫ハ如キモ亦世人ノ想像
 スルヨリモ實際ニ速ニ落成ノ功ヲ見ルヘキハ明
 白ナル事實ナリト云フ嗚呼露國カ此鐵道ノ便ヲ
 利用シテ果シテ如何ナル運動ヲ試ムヘキヤ苟モ
 該線路カ太平洋ノ沿岸地ニ達スルノ日ニ至ラハ
 該地ニ接近スル諸國ト歐洲諸國トノ貿易及ヒ其
 他ノ關繫ニ於テ必ス非常ナル變動ヲ起スヘシ特

其變動ノ最モ劇烈ナルヘキハ日本朝鮮ノ北部
 及ヒ支那ノ北部ニ於テ最モ然リトス嗚呼東洋將
 來ノ運命タル實ニ最モ痛ムヘキ最モ憂フヘキ所
 ノ境界ニ陷ント欲ス禍ヲ轉シテ福ト爲スハ今日
 ニアリ我國ノ志士タル者ハ徒ニ區々タル言論ヲ
 用フヘキノ時ニ非サルヲ知り由テ以テ東洋ノ大
 勢ヲ他日ニ挽回スルノ新策ヲ講究セラレシコトヲ
 一默曰。夫有雲霧之勢而能乘遊之者。龍蛇之才美之
 也。有盛雲釀霧之勢而不能乘遊者。蟻螳之才薄也。能
 足此段大受用者。非俾士鐵漢則不能矣。
 翹甲子曰。日本人。動安於一葦國。甘于一孤島。而不知
 有宇內。安得爭雄於歐米各國哉。其結英結露。抑亦夢

想所不及也。噫。浩歎何堪。

橋香居曰佛
國東洋政略
甚激烈如英
國蹇日所爲
然時世大異
且國內動波
瀾橫流恐不
如英或有半
途蹉跌之憂
耶

形勢第七

佛國ノ東洋政略

佛國ハ歐洲ニ於テ往年英國ニ存シタル一致同盟ノ
交誼ハ今日ニ至リ大ニ其趣ヲ異ニシ曩ニ英國カ千
八百八十二年埃及國亞歷山得府ヲ砲撃シタル以前
ハ英佛並立シテ其内政ニ干預シ砲撃モ相共ニ決行
スルノ約アリシニモ拘ラス佛國ハ俄カニ國際法ニ
頼リ事ヲ處セントシ其說ヲ異ニセシカ故ニ英國ハ
獨リ砲撃ヲ斷行シ武力ヲ以テ埃及ヲ蹂躪シ依テ以
テ其内政ヲ專行スルニ至リ佛國ヲシテ手ヲ下スニ
由ナカラシム佛國ハ自己ノ變說ヨリ事ノ茲ニ至リ
シナレハ正當ニ理論ノ以テ之ニ抗スルニ足ル可

キ者ヲ發見セサルカ爲ニ僅カニ民心ノ感覺ヲ毀傷
 スルモノトシテ立論セリ然レモ其實ハ英國今日ノ
 勢内外ノ憂患ニ接シ鋒鏑ノ銳ヲ失ヒシニ引替ヘテ
 佛國ハ陸海軍ノ擴張セシチ以テ已ムヲ得スンハ事
 ナ干戈ニ訴ントスルノ狀ヲ示シ以テ目的ヲ達セン
 一ヲ謀レルモノ、如シ然ルニ英國ハ此ニ察スル所
 アリテ伊國ト相結ヒ以テ之ニ應セントス夫レ伊國
 政府ハ其產出ノ地タルサボイニイスノ二州ヲ佛國
 ニ強収セラレ怨恨モ亦啻ナラサルニ際シ佛國ハ彌
 ヲ威力ヲ振張シ伊國ノ南西ニ海ヲ隔テ、亞耳塞亞
 ノ大地ヲ占領シ伊國ノ爾來熱望セシ其直南近接ノ
 突尼斯ヲモ爲ニ奪ハレダレハ佛國ニ對スルノ敵意

題布蘭塞將軍肖像

未上麒麟先見切心胸落々厭群雄
 一枝健筆來寇史手拔伯靈在此中

頃日將軍著千八百七十年來寇史表顯其
 主義精神大博佛國人民之喝采故結句及
 此

越海曰千八百七十年來寇
 史吾輩未讀其書知其
 書之精神光彩爲布朗曰
 將軍之爲英雄在于此書
 爲其爲迂濶亦在於此書爲
 昔者宋人殺檀道濟使世人護
 汝自破汝之萬里長城之痛嘆吾想佛人
 自破萬里長城者蓋在于布將軍二百五
 十萬部來寇史

越海曰手拔改作兼美似勝
 鋤雲曰手拔改作既既此中改作目中如何



ハ更ニ前日ニ倍蓰セリ然ルニ獨力ヲ以テ之ニ抗ス
可ラス結テ以テ事ヲ爲ス可キハ英國ノ外又別ニ國
アラズ兩國ノ政策互ニ相應シ親密日ヲ追テ加ハル
カ故ニ佛國ニシテ強テ埃及ノ事ニ干涉シ英國ヲ退
ケテ自ラ其權勢ヲ同國ニ振ハントスレハ即チ伊國
ノ政策ヲ妨碍スルモノト爲ル是ニ於テ英佛互ニ相
制セントスルノ際伊國アリテ之レカ權衡ヲ左右ス
ルノ勢ヲ成セリ
蓋シ佛國ハ先年獨國ノ爲ニ敗衄ヲ蒙リ拿破崙第三
世カ獨軍ノ轅門ニ降り尋テ城下ノ盟ヲ爲セシヨリ
以來内閣ノ變動反覆音ナラスト雖モ名相宿將各雄
圖ヲ海外ニ伸ヘント欲シ英氣勃々トシテ遏ム可ラ

ス然ルニ適々安南ト疊チ生シ佛將李拔兒ハ俄ニ險
 チ冒シテ戰死セシヨリ千八百七十四年ノ條約ヲ實
 行スルチ名トシテ征東ノ軍ヲ起セリ佛國ハ已ニ斷
 然一決兵ヲ出ス清國ノ如キハ固ヨリ顧慮スル所ニ
 非ラス一面ニハ談判ニ力ヲ盡シ一面ニハ征略ニ汲
 々トシテ遂ニ順化府ノ條約ヲ以テ安南ヲ保護國タ
 ル屬邦タラシメ爾後清國ト兵ヲ交ヘテ殆ント一年
 ノ久キニ涉リタレモ共和約ヲ成スニ及ヒテ清國チ
 シテ向後復タ安南ノ事ニ干涉セサラシメタリ抑モ
 安南ノ地タル亞細亞大陸ノ南岸ニ面シ東北ハ清國
 ノ雲南省ト境ヲ爲シ西南ハ緬甸暹羅ト其壤ヲ接ス
 ルハ國ニシテ我日本ハ如キハ朝鮮ノ如ク直接ノ關

秘中子曰安
 南爲佛國之
 屬邦而我國
 人情不知痛
 痒豈可勝慨
 乎哉

繫ヲ有セサレモ東洋ハ全局ヨリ見レハ殆ント朝鮮
 ニ亞シ所ノ要地タリ佛國ハ已ニ此要地ヲ屬國タル
 ノ實アラシメタレハ佛人益々進取ヲ事トスルニ隨
 テ清國東南ノ邊境益々多事ト爲ル東南ノ邊境愈々
 多事ト爲ルニ隨テ佛人ハ愈々勢力ヲ得ルニ至ル可
 キナリ左レハ佛國ノ殖民政略ハ今日嘗ニ印度洋紅
 海及亞非利加西部ノ海岸ニ於ルノミナラス支那海
 ニ於テモ充分ニ勢力ヲ得タル者ト云フ可シ況ンヤ
 佛國ハ活潑剛健ナル人種ナルカ上ニ其國力ノ富饒
 ハ歐洲ニ冠タルニ於テオヤ然レモ東洋ニ於テ佛國
 ノ勢力ヲ得ルハ英國ハ最モ忌ム所ニシテ佛國モ亦
 英國ノ專權ヲ殺ンカ爲ニ益々葛藤ヲ生シ露國ハ東

洋、經、略、ノ、援、ヲ、引、カ、ン、カ、爲、ニ、佛、國、ト、同、盟、ス、ル、ハ、必、然、
 ハ、勢、ナ、リ、是、レ、露、佛、ノ、東、洋、ニ、於、テ、同、盟、セ、サ、ル、ヲ、得、サ、
 ル、所、以、ニ、シ、テ、我、日、本、カ、結、テ、以、テ、東、洋、ニ、雄、圖、ヲ、伸、ブ、
 ル、ヲ、必、要、ト、ス、ル、所、以、ナ、リ、
 論、者、曰、ク、此、レ、愚、人、ノ、計、ノ、ミ、天、下、誰、カ、我、國、ノ、雄、圖、ヲ、
 東、洋、ニ、伸、フ、ル、ヲ、欲、セ、サ、ル、モ、ア、ラ、ン、哉、願、フ、ニ、勢、
 不、可、ナ、ル、ノ、ミ、ト、曰、ク、東、洋、ノ、勢、危、急、ニ、危、急、ヲ、加、フ、ル、
 一、此、ノ、如、ク、其、レ、甚、シ、然、ル、ニ、我、國、未、タ、一、定、ノ、國、是、ヲ、
 決、セ、ス、朝、野、ノ、論、一、是、一、非、因、循、苟、且、遠、憂、大、患、ハ、目、前、
 ニ、在、ル、ヲ、知、ラ、ス、月、歲、ヲ、圖、ラ、ス、朝、夕、ヲ、計、ラ、ス、區、々、
 ト、シ、テ、姑、息、自、ラ、安、シ、以、テ、其、大、變、ヲ、キ、キ、冀、フ、何、ソ、其、
 ノ、惑、ヘ、ル、ヤ、今、マ、字、内、ヲ、大、觀、シ、テ、以、テ、天、下、ノ、勢、ヲ、制、

稷甲子曰知
 此露廢的活
 手段者果有
 幾何耶

セント欲セハ今日ノ機會ニ乘シテ以テ天下ヲ死地
 ニ投シ愚弱柔情ノ氣ヲ振刷シ進取ノ勢ヲ天下ニ示
 スヘシ苟モ此ノ如クナレハ露佛必ス同盟ヲ我ニ求
 ム可シ露佛同盟ノ機會及ヒ影響ハ我國ガ雄圖ヲ伸
 ブルノ時ニシテ誠ニ失フ可ラサルノ大機ナリ夫レ
 露佛アリテ獨英ノ勢ヲ制スルキハ我日本ハ獨リ力
 チ東洋ニ逞クスルヲ得可シ然ラスンハ大機一タ
 ヒ去テ復々回ス可ラス大勢一タヒ失シテ復々挽ク
 可ラス我日本ハ管ニ東洋ヲ一振スルヲ得サルノ
 ミナラス無前ノ大變ニ遭遇センモ亦未タ測ル可ラ
 ス嗚呼東洋危急ノ勢此ノ如ク其レ逼レリ強國蠶食
 ノ慾此ノ如ク其レ甚シキナリ今日ニシテ早ク之カ

大計ヲ立テスンハ吾儕ハ我日本ノ久安シテ變ナキ
ヲ保スルヲ能ハス嗚呼宇内ハ勢ヲ審ニセテ愚
弱自ラ安ンシ以テ天下ノ務ニ應セントス抑モ亦難
カラスヤ

一默曰。噫吾微斯國。吾與歸。

韃甲子曰。前年清佛戰爭之際。有同盟之機會而不能
乘之。噫日本無一寇準。受外國之輕侮。不為無謂矣。

兵勢第八

歐洲強國ノ兵備及ヒ我國ノ兵備

韃甲子曰我
國人眼孔如
豆徒皮相于
文明事物而
不省輿地兵
事若貿易之
關係如何者
居多噫

方今歐洲ノ形勢ヲ觀テ誰レカ之ヲ危急ニ非スト云
フヲ得ンヤ歐洲ノ強國ハ旦夕ノ不測ヲ慮リ日夜兵
備ヲ整ヒ戰雲鬱勃トシテ大陸ヲ蔽ヒ干戈一ヒ發セ
ハ千處万處皆一時ニ發セントス豈危カラスヤ我國
ハ東洋ニ孤立シ四境繞ラスニ蒼海ヲ以テスルカ上
ニ吞併ノ雄圖ヲ抱クノ強國ヲ比隣ニ見スト雖也實
際ニ於テハ歐洲各國ト壁ヲ合スルニ異ナラス假令
ヒ我國是ニシテ保守主義ヲ執ルモ將タ商民主義ヲ
執ルモ彼ノ來ラサルヲ恃トスルノ時ニ非サルナリ
況ンヤ我國ハ進取ノ主義ヲ決シテ雄略ヲ開カサル

禪甲子曰今
天下兵衆者
勝兵寡者敗
強者與弱者
亡福澤翁着
眼超時俗但
此一事可喜

可ラサルノ勢アルニ於テチヤ況ンヤ歐洲強國ハ競
テ遠略ヲ事トシ日本ノ近海ニ於テ要衝ノ地ヲ占領
シ一旦事アルノ日ニ臨ミテ衝ヲ東洋ニ争フノ根據
ヲ得ントスルニ於テチヤ又況ンヤ今日ニ將來ニ露
國ナリ英國ナリ東洋ニ於テ相追逐セントスルノ狀
アルヘケレハ一日トシテ我防衛ヲ忽ニス可ラサル
ノ時タルニ於テチヤ是レ吾儕カ歐洲各國ノ兵備ヲ
審ニスルヲ以テ急務ト爲ス所以ナリ
歐洲ノ兵備ニ付キテ福澤諭吉氏ハ曾テ時事新報ニ
於テ我國ノ兵備ト其比例ヲ示サンカ爲メニ歐洲各
國ノ人口歳入陸海軍其歳費ノ數ヲ記セリ
佛 人口三千六百九十万五千五百人
歳入五億九千九百三万圓
海軍費四千二百二十万圓
陸軍費一億一千〇五十八万圓

日 人口四千三百七十二万七千人
歳入一億三千五百十九万圓
海軍費八千〇二十七万圓
陸軍費四十一万九千十四名
英 人口三千二百六十二万八千人
歳入四億一千五百五十七万圓
海軍費五千九百八十一万圓
陸軍費八千八百二十六万圓
露 人口八千五百六十八万五千人
歳入四億二千九百二十六萬圓
海軍費四千五百八十八万圓
陸軍費一億二千九百六十九万圓
伊 人口二千六百八十万一千人
歳入二億八千五百一十一万圓
海軍費五百四十七万圓
陸軍費四十九万五千五百一十一名
荷 人口三百五十七万九千人
歳入四千八百二十六万圓
海軍費七百八十六万圓
陸軍費五百四十七万圓
日本 人口三千五百七十六万八千人(十二年調)陸軍人七万四千三百三十四名(十二年調)
歳入五千九百九十三万圓(十三年豫算) 陸軍費八百十五万一千圓(十三年豫算)
海軍費三百〇一万五千圓(十三年豫算)

日ク右ノ表ニ據レハ大數ヲ以テ比較スルニ日本
ノ人口ハ佛國ト同フシテ其歳入ノ高及ヒ陸海軍
ノ有様ハ日本ニ十倍シ又日本ト荷蘭トチ比較ス
レハ我人口ハ荷蘭ニ十倍シテ歳入以下ノ個條ハ

殆ント相同シキヲ見ル可シ凡ソ一國ノ維持ハ其
國人民ノ資力ニ依ルモノトスレハ我日本ノ人民
ハ佛荷兩國ノ人民ニ比シ其力僅ニ十分ノ一ナリ
ト謂ハサル可ラス即チ日本ノ十人ハ佛荷兩國ノ
一人ニ當ルモノナリ今一步ヲ進メテ之ヲ云ヘハ
日本全國ノ債ハ佛國ノ十分一ニ相當スルカ故ニ
日本ト荷蘭ト在形ノ儘ニ交易スルモ損益ノ差ナ
シト云フモ可ナランヤ豈法外千万ナルニ非スヤ
抑モ實際ニ於テ我國ニ殖産ノ路ナク我人民ニ資
力ヲ有セサルモノナレハ己ムヲ得サルヲナレハ
吾輩未ダ其實ヲ見サルナリ如何ニ説ヲ作りテ自
國ヲ蔑視セント欲スルモ未ダ其實際ヲ見サレハ

之ヲ信スルヲ能ハサルナリ議論ハ姑ク置キ現ニ
二十年前封建ノ時代ニハ我日本ニ於テ四十萬ノ
士族ヲ養ヒシニ非スヤ即チ四十萬ノ軍人ナリ但
シ其之ヲ養フノ法ニ至テハ獨リ之ヲ國民ノ責ニ
任シテ偏重偏輕ノ弊モ多カリシヲナラン然レモ
是レ唯法則ノ宜シカラサルノミ今日ニ於テ其法
ヲ改ムルハ決シテ難キニ非ス兎ニ角ニ昔年ハ此
四十萬人ノ軍人ヲ養テ膏ニ之ニ武器ヲ貯ヘシム
ルノミナラス當時ノ軍人ハ今ノ徴兵ノ類ニアラ
ズ各一家ヲ成シテ其妻子家族ヲモ保護スルノ法
ナルカ故ニ一家五口ト算シテ總計二百萬人ノ衣
食ヲ給シタル費用即チ軍費ハ實ニ容易ナラサル

高ナリ既ニ我人民ハ毎年此巨額ノ軍備ヲ供シテ之ニ耐ヘタルモノナリ決シテ荷蘭等ノ如キ小國ノ企テ及フ所ニ非ス大國ト雖モ恐ラクハ亦難ンタル所ナラン我日本ノ資力ニ乏シカラサルヲ明ニ之ヲ證ス可シ今ヤ此ノ軍人四十萬ノ兵役ヲ解テ之ニ代ルニ七萬四千ノ陸軍ト軍艦二十九隻ノ海軍ヲ作り其費用陸海合シ僅ニ一千百餘萬圓ノニ曩ニハ二百萬人ヲ食ハシムルノ資力ヲ有シテ今日ハ頓ニ之ヲ失ヒ復タ一步ヲ進ムルヲ能ハサル歟證ス可ラサルノ事實ナリ故ニ今我國ニ於テ兵備ヲ改革スルト否トノ問題ハ之ヲ人民ノ資力如何ニ謀ラスシテ其國ニ盡スノ熱心如何ノ一點

ニ問フ可キノミト又曰ク兵備ノ用ヲ云ヘハ其國民ノ安全ヲ保護スルニ過キス然レハ兵員ハ主保者ニシテ國民ハ被保者ナリ此主保者ト被保者トノ割合ハ如何ニシテ適當ナルヤト云フニ自國ノ地理ニ由リ隣國ノ景況ニ由リ一時自他ノ政略ニ因リ種々ノ事情ニ從テ一概ニ定メ難シト雖モ歐洲二三國ノ比例ヲ案スルニ主保者一人ニ付被保者六七十人ナルヲ最モ手厚キ者トシテ中等ハ百人ヨリ上テ二百人以上ナルハ稀ナリ即チ佛國ノ人口ハ大數三千七百萬ニシテ陸軍ノ兵數ハ五十萬ナル故ニ人口七十人ニ付兵員一名ノ割合ナリ此計算ニ從テ日耳曼ハ百分ノ一露國ハ百十分ノ

一伊太利ハ百三十分ノ一荷蘭ハ五十七分ノ一ニシテ英國ハ殆ント海軍ヲ以テ國ヲ守ルモノト稱スレヒ人口三千百六十萬ニ陸軍人十三萬五千人アリテ尙ホ二百三十分ノ一ノ割合ナリ獨リ我日本ニ至テハ大ニ此ノ割合ノ外ニ出テ、人口三千五百七十萬餘ノ被保者ハ主保者タル陸軍人ノ數ハ七萬四千ニ過キス即チ四百八十ニ一人ノ割合ナリ讀者ハ此割合ヲ見テ如何ナル感慨ヲ惹キ起ス可キカ外戰ハ猶ホ出火ノ如ク軍人ハ猶ホ消防人ノ如シ歐洲諸國ハ此火事ニ備フル人口ノ惣數百分ノ一男丁ヲ養ヒ我日本ハ四百八十分ノ一ヲ養フ歐洲諸國ノ火事ニハ四人八分ノ力ヲ以テ消

總甲子曰士官養成之事今日先務也而迂儒往々有爲不急者何等俗見

防スルモノニシテ我國ニテハ唯一人ヲ役ス可キノミ之ニ加フルニ右ノ大數七萬四千トハ豫備後備軍ヲモ合シタル數ニシテ現ニ軍裝シテ衛所ニアルモノ、ミニ非ス尙ホ此上ノ缺典ヲ云ヘハ論ス可キモノ甚ダ少カラス現今將校下士ノ未タ全備セサルカ爲ニ後備軍ノ如キハ假令ヒ二萬ノ數アルモ實地ニ臨テハ士官ニ乏シクシテ十分ノ用ヲ爲ス不能ハサル可シ後備軍ニシテ尙ホ且ツ此ノ如シ況ンヤ國民軍ニ於テチヤ全國ノ男子ニテ兵役ニ堪ユル年齢者ハ幾十百萬ノ數アリテ其男子モ亦至極勇ナリト雖モ今日ハ其軍器戎服サヘ未タ完全ニ至ラス又之ヲ指揮ス可キ士官ノ如キ

ハ差向キ其用意ニ苦ムト云フ可キ程ナレハ他事
 ハ姑ク置クモ多ク士官ヲ教育シ又今日野ニ在テ
 士官ニ適スル者ハ臨時ハ法ヲ以テ之ヲ招募シテ
 或ハ現職ニ就カシムル歟又ハ非役士官トシテ之
 チ養フテ緊要ナルヘシト又曰ク海軍ノ不完全ナ
 ルニ至テハ陸軍ヨリ更ニ一層ノ甚シキモノト云
 フ可シ四面海ニ濱スル海國ニシテ海軍ノ缺ク可
 ラサルハ其理由ヲ云フモ迂濶ナレハ之ヲ闕キ今
 試ニ我海軍ヲ以テ我航海ノ師國タル荷蘭ノ海軍
 ニ比較スレハ我ニ二十九艘ノ軍艦アレハ彼ニハ
 八十五艘アリ荷蘭ハ日本ノ十分ノ一ニシテ其海
 軍ハ殆ント我ニ三倍セリ或ハ海軍ノ強弱ハ單ニ

橘香居曰讀
 至于此誰凜
 然不粟肌乎

軍艦ノ數ヲ以テ標準トス可ラスト云ハンカ然ラ
 ハ之ニ費ス所ノ金ノ多寡ヲ以テ之ヲ知ル可シ日
 本ノ海軍費ハ三百萬圓ニシテ荷蘭ハ五百四十萬
 圓ナリ伊太利ハ八百六十萬圓ニシテ英國ハ五千
 九百萬圓ナリ亦以テ強弱ヲ知ルニ足ル可シ我軍
 艦ノ數二十九艘ナリト雖モ其實際遠洋ニ航シテ
 海戰ニ適ス可キモノハ僅ニ半數ノミ此寥々タル
 軍艦ヲ以テ一旦海上ノ警ヲ聞ケハ如何ス可キカ
 又歐洲諸國收稅ノ多寡ヲ以テ日本ニ對照スレハ
 近年ノ所ニテ人口一人ニ付大凡ソ左ノ割合ナリ

佛 國

十六圓二十四錢

英 國

十三圓十四錢

選甲子曰此
 籍兵勢統計
 皆係于明治
 十三年調查
 焉今日則大
 異其趣是亦
 不可不知

露國	四圓八十九錢
伊國	十圓六十四錢
荷蘭	十三圓四十八錢
日本	一圓六十八錢

國稅ノ多寡ハ其國殖産ノ盛否ト國民ノ貧富トニ
 關スルモノナレハ今遽ニ歐洲諸國ノ例ヲ以テ離
 レテ唯我日本ニ對照スルハ必ス異議アル可キヲ
 以テ爰ニ外國ノ例ヲ離レテ唯我日本ノ維新前後
 ニ就テ之レヲ論セン封建ノ時代ニ當テ三百ノ諸
 侯カ領民ヲ取扱フニ正租雜稅ヲ綿密ニ賦課シ尙
 其外ニモ種々ノ課役ヲ命シ御用金ヲ取上ケタル
 カ如キハ非常ノ事ナリシカ維新廢藩ノ時ニ既ニ

人民ハ往時ノ疾苦ヲ忘レ次テ明治九年地租改正
 ノ舉ヲ行ヒ當時ノ豫算ニテ政府ハ幾分ノ減租ヲ
 人民ニ許シタル其上ニ改正シ未タ半ニ至ラスシ
 テ百分ノ三ヲ減シ二分五厘トシ又之ニ加フルニ
 改正ノ後五年間ノ米價頻ニ騰貴シタルカ故ニ約
 束ノ如ク再ヒ改正スルキハ租額必ス大ニ増加ス
 可キ筈ナレト其期ヲ延シタルハ之ヲ寛大ナリト
 云ハサル可ラス吾輩今人民ノ一方ニ眼ヲ注テ其
 個々ノ私利ヲ謀レハ此改正ノ始末モ甚タ賀ス可
 キニ似タレト聊カ眼界ヲ廣フシテ此一國ヲ一家
 ト看做シ其維持保護ヲ以テ最大ノ目的ト爲スル
 ハ民情ヲ觀察シテ果斷ノ處置ヲ施スニ忍ヒサル

橘香居曰欲
有大所爲不
可不少損現
今之勢不可
區々小利害
失大有爲之

モノナリ政事ノ働ヲ逞クスルヲ能ハサルモノナ
リト
嗚呼兵備皇張ノ事ハ之ヲ小ニシテハ貿易ノ盛衰興
亡ノ如何ニ關シ之ヲ大ニシハ我帝國ノ安危休戚ノ
如何ニ關スル者ナリ我豈區々タル軍費ニ局促シテ
長計ヲ猶豫ス可ケン哉夫レ民ヲ愚ニシ兵ヲ弱クス
ルハ天下ト共ニ休息スル所以ニシテ内ヲ治ムルノ
奇策ナリト雖ヒ今日ハ東洋ノ孤嶋ニ安坐シテ自ラ
守ルノ時ニ非ス歐洲諸國日ニ吞併ヲ尋キ殖民ヲ事
トシ以テ東洋ニ逼ル今日陸軍ヲ整ヒ海軍ヲ練リ寡
ヲ轉シテ衆ト爲シ弱ヲ更メテ強ト爲シ海内ノ全力
ヲ集メテ以テ進取ノ策ヲ決スルハ勢ノ己ムヲ得サ

機也藉躡踏
趁巡則大事
既去

ルモノナリ嗚呼陸海軍ノ擴張ハ固ヨリ咄嗟ノ間ニ
辨ス可キニ非ス今日ニ當テ大ニ其經畫ヲ定メテ以
テ其時機ヲ失フヲ無キヲ望ムナリ
一默曰。越海居士曾有句曰。腥風捲雪三韓野。殺氣蔽
天千島濱。事急須憂戎備弛。時危却喜士心振。先獲我
心。
褪甲子曰。無氣無膽。汲々於空文。不知兵備之爲何物。
日本國人真不堪憫笑也。

兵勢第九

歐洲強國ノ兵備及我國ノ兵備

吾儕ハ更ニ進テ尙ホ近時歐洲諸國ノ兵備ヲ察スヘ

謎甲子曰秋
空霧海中看
猛雷狂電今
世界真活劇
場哉

埃及
埃及
埃及

埃及聯合陸軍ハ平時將校一七、八六七人卒
二六八、五五五人、合計二八六、四二二人、砲兵
七六六門、馬五〇、三六二頭ニシテ戰時將校
三二七八五人、卒一、〇四四、三一九人、合計一、
〇七七、七〇四人、砲一、六七九門、馬二一一、四
六二頭アリ

佛朗西陸軍ハ平時在職將校二六、九七四人、
非役將校四二、七二〇人、卒四五四、一三〇人、

佛朗西

合計五二三、八二四人、砲二、六九四門、馬二〇、
八九〇頭ナレトモ戰時ハ豫備後備ヲ合シテ
一、九五九、八六一人、砲二、九五二門ヲ得ヘシ
獨逸陸軍ハ平時四四五、四二四人、此内將校
一八、一五〇人、非役將校五一、五九一人、樂人
一三、四二七人、軍醫一、六九八人、病院助手三、
五三二人、獸醫六一八人、會計監督一、五七〇
人、砲工六五六人、技工一〇、九〇一人ナリ但
シ此内ニハ一年限服役義勇兵(七、〇〇〇人、
乃至八、〇〇〇人、憲兵(凡九、五〇〇人、見習士
官凡二、五〇〇人及第一等ノ豫備兵ヲ算入
セズ馬ハ八一、五九八頭ナリ獨逸聯邦ノ内

獨逸

普瀟生ハ將校一四、〇四五人、卒三三〇、六二九人、馬六四、四二三頭、華巴厘ニ將校二、二一五人、卒五〇、二二四人、馬八、七七一頭、撒遜ハ將校一、一三八人、卒二七、六〇六人、馬五、一三三頭、瓦敦堡ハ將校七七二人、卒一八、八一五人、馬三、四四三頭ヲ有ス獨逸ハ戰時ニハ國民軍ヲ募ラサルモ尙ホ一、五一九、一〇四人ノ陸軍ヲ發シ又砲二八〇門、馬三一二、七三一頭ヲ供スルヲ得ヘシ國民軍ハ凡九九九、〇〇〇人ナリ故ニ獨逸戰時ノ總兵數ハ凡二、七六二、〇〇〇人ニ達スルヲ得ヘシ

佛獨二國ノ兵勢ニ付千八百八十七年二月五日ノ

認甲子曰英
國守婦人主
義佛國亦雖
主張平均主
義稍有武人
主義處獨國
則純然武人
主義也

英國、グラフ井ツクハ兩國ノ人口陸海軍平時及戰時ノ員數人口ニ對スル兵勢ノ割合陸海軍費ハ國費ニ對スル陸海軍費ノ割合其他馬匹軍艦大砲等ヲ對比シ頗ル明瞭ナルヲ以テ其重複ヲ厭ハス之ヲ掲ク

佛朗西

獨逸

人口	三七、八〇〇、〇〇〇	四六、八〇〇、〇〇〇
陸軍兵數	平時五三三、〇〇〇 戰時一、八八七、〇〇〇	四四五、〇〇〇 一、五六二、〇〇〇
步兵	平時三五九、〇〇〇 戰時一、五四七、〇〇〇	三二三、〇〇〇 一、一九〇、〇〇〇
騎兵	平時七五、〇〇〇 戰時九三、〇〇〇	六八、〇〇〇 一一五、〇〇〇
砲兵	平時七六、〇〇〇 戰時一五八、〇〇〇	五三、〇〇〇 一二五、〇〇〇
工兵	平時一二、〇〇〇 戰時六二、五〇〇	一一、〇〇〇 四一、〇〇〇

人口ニ對スル平時 一分四厘一毛 九厘一毛
 陸軍兵數ノ割合 一六、〇〇〇
 海軍兵數 (平時七〇、〇〇〇 戰時一二〇、〇〇〇) 三〇、七〇〇
 人口ニ對スル平時 一厘九毛 三毛
 海軍兵數ノ割合 二毛
 陸軍費(磅)二六、二七〇、〇〇〇(磅)一九、二二〇、〇〇〇
 海軍費(磅)一七、八〇〇、〇〇〇(磅)二、三四〇、〇〇〇
 國費ニ對スル陸 四割四厘六毛 二割六分四毛
 海軍費ノ割合 八一、〇〇〇
 馬ノ頭數 (平時二〇、〇〇〇 戰時二八三、〇〇〇) 三一三、七〇〇
 大砲門數 (平時一四、〇〇〇 戰時二六、一〇〇) 一三、七〇〇
 軍艦艘數(但水雷艇五〇七) 二八、〇〇〇
 一八七

英國ノ陸軍ハ將校及兵卒ヲ合シ五九五、三二〇人ニシテ第一類豫備兵ハ三九、二六八

總甲子日英國獨癖之病將入膏肓見此可以知也又曰今日英國東洋貿易議地歩於獨國焉況兵備哉

英吉利

人第二類豫備兵ハ七、七三八人、民兵ハ一三九、七八六八、農兵ハ五七、九二八人ナリ然レ此此外印度土人兵三〇、八八二人、愛蘭巡查ノ三〇〇人、印度巡查ノ一九〇、〇〇〇人ヲ加フルキハ總計九一八、二〇二人ト爲ルヘシ蓋シ印度及愛蘭巡查ヲ陸軍中ニ合算スル所以ノモノハ其組織陸軍ノ基礎ナルカ故ナリ又大砲ハ六一〇門、馬匹ハ五、九五六人ナリ要スルニ英國ノ常備兵ハ平時ニ於テハ僅カニ二〇三、七九一人ニ過キサルナリ

露西亞ノ陸軍ハ平時八〇七、二四二人(二、七、

韃甲子曰可
最恐者露國
兵勢也六百
万在手可以
横行世界焉
何等雄武

露西亞

四七二人ハ將校ニシテ大砲ハ一、六三二門、馬匹ハ一二九、七三六ナリ又戰時ニ於テハ二、四八九、三三三人ニシテ大砲ハ四、〇一六門、馬匹四六四、五八六頭ナリ此内常備兵ハ一二四、一〇三人、豫備兵ハ一、二四一、〇一三人豫備兵ハ一、〇六四、〇一三人、疆界地守兵ハ四一、四八六人ニシテ胡索兵一四二、八二一人ナリ右ノ外地方豫備兵ニ於テハ大約一、二〇〇、〇〇〇人、國民軍ニ於テハ大約一、二〇〇、〇〇〇人ヲ徵集スヘキヲ以テ露國ハ戰時ニ於テ六百萬ノ兵ヲ得ヘシ
千八百八十五年ニ土耳其現役兵ハ一七〇、

土耳其

〇〇〇人、砲八二八門、馬二三、〇二五頭ナリ戰時充分ニ徵集スルキハ衛戍兵其他ヲ合シテ一、一六一、六〇〇人、砲三、三四八門、馬九五、〇〇〇頭ヲ得ヘシ

伊太利

伊國ノ陸軍ハ現役兵戰時徵發民兵及地方民兵ノ三種ニ類別セラレ平時ニ於ル常備兵ハ二一五、〇〇〇人(内一四、〇〇〇人ハ將校)此外綫銃步兵ハ大約二三、〇〇〇人税關番兵ハ大約一六、〇〇〇人又大砲ハ一、〇三二門、馬ハ三八、〇〇〇頭ナリ千八百八十五年度ノ歲計ニ據レハ伊國ノ陸軍ハ戰時ニ於テ二、四〇〇、〇〇七八人ニシテ内八八一、二

○三人ハ現役兵ニ三六二、三五三人ハ戰時
徵集兵ニ一、一五五、五二二人ハ地方民兵ニ
屬ス

諸威、和蘭、葡萄牙、西班牙、瑞典、瑞西(常備兵)馬爾汗諸國
白耳義、丁抹、以上歐洲各國兵勢ノ總計ヲ舉レハ平時
三、一三四、三〇四人、戰時一四、六〇二、八六四人、磅一七、
九八五門、馬一、四六四、〇九三頭ナリ(以上ハ千八百八
十七年一月六日香港「デリープレス」ノ記載スル所ニ
由ルモノナリ)然レモガーン氏ノ英國陸海軍ノ總
數ヲ看ルコト通計百三十九万九千三百十八人ニシテ
其兵種ヲ區別スレハ本國正兵十九万四千四百四十
五人、現役豫備兵四万三千人、民兵十三万八千三百七

十四人、近衛兵一万四千四百五十八人「コンスタター
ル」兵一万四千人、義勇兵廿四万六千三百六十人、印度
土人兵十二万八百八十二人、同義勇兵一万人、同邏卒
兵十九万人、印度屯在兵三十万人、加奈他土人現役兵
ハ四万人、豫備兵六万五千五百人、亞米利加殖民地屯
在兵三千三百人、アングロ、イマン島土人兵四千人、セ
ント、マルタ島土人兵八百五十人、錫蘭、新嘉坡及香港
屯在兵四百五十人、亞弗利加洲セント、マウリーク島
及セント、エレナ島並ニ印度洋諸島屯在兵二千七百
五十人、濠太利及新西蘭義勇兵一万人ナリトス又海
軍ノ總勢ハ通計七万九千六百五十八名ニシテ其兵
種ヲ區別スレハ現役兵及豫備兵四万七百五十三人

水夫一万八千人、海軍歩兵九千五百八十三人、海軍砲兵二千四百四十二人ニシテ甲ノ士官二百七十四人、乙ノ士官九十人、臺塲砲兵(義勇兵)三千五百五十人ナリ(但シ英國ニ於ル水夫ノ給料額ハ甚シキ差異アリテ一名ニ付一箇年四百五法(凡我八)乃至七百法(凡我百四)十(凡我二)圓ヲ給セリ又被服費ハ一名ニ付一箇年百法(凡我十)乃至百三法(凡我二)糧食費ハ同四百五十法(凡我十)圓(凡我九)チ要スト云フ海軍艦船ノ総數ハ通計五百五十四艘ニシテ甲鐵艦七十四艘、汽船三百六十艘、帆船百二十艘ナリトス

吾儕ハ更ニ千八百八十五年中佛英露獨伊五國ノ海軍進歩ノ現況ヲ察スヘシ

(佛國)千八百八十五年中全世界ノ耳目ハ一ニ佛國ノ海軍ニ集レリ蓋シ佛清戰鬪中支那海屯在佛國ノ艦隊ハ有名ナル海軍中將故孤拔提督ノ指揮ヲ受ケテ屢々大功ヲ絶東地方ニ奏シ以テ其強勢ヲ示シ又米穀ヲ禁賣シ澎湖島ヲ占領シ終ニ清國政府ヲシテ和ヲ佛國ニ講セシムルニ至レリ平和條約ヲ締結スルニ及ヒテ同艦隊ハ一時分散セラレ其船艦ハ大半修繕ノ爲メ佛國ニ歸航シ其他ノ船艦ハ之ヲ各所ノ停繫所ニ配置セリ

又小艦隊及分艦隊ハ今日ト雖ヒ尙東京平定ノ征役ニ從事セリ印度洋分艦隊ハ馬島ニ於テ前年來引續キ重要ナル諸港ノ封鎖ヲ行ヒ又ヴオエマ

ルニ對スル戰闘ニ與レリ此戰闘結了ノ後十一月十七日ノ假條約ヲ締結シタルモノハ蓋シ此分艦隊ナリ

要スルニ佛國政府ハ啻ニ支那海及ヒ印度洋ノミナラス又紅海及亞弗利加西部ノ海岸ニ於テ實行セシ殖民政略ノ必要ニ應スルカ爲ニ大ニ其船艦ト人員トヲ使役セシヲ以テ其海軍ノ編成ハ爲ニ其進歩ヲ妨害セラレタリ又千八百八十五年中ニ於テハ一モ大甲鉄艦ノ製造ニ着手セズ專ラ製造中ノ船艦ヲ完了スルヲニ努メタリ但シ水雷艇ノ小船隊ハ大ニ増加シ又海軍省ハ毫モ外國製ニ劣ラサル大速力ノ巡航船二艘ヲ民間ノ造船所ニ注

文セリ故ニ千八百八十五年ニ於テ佛國ノ海軍ハ最モ活潑ニシテ且ツ其船艦ノ既ニ製造ニ着手セシモノハ竣功ヲカメ又將來ニ製造スヘキモノハ準備ヲ成セリ

(英國)千八百八十五年中英國ニ於テハ千八百八十四年ノ末期ニ於テ議決セシ艦隊增加方法書ノ編纂ヲ續行セリ曩ニ亞富汗事件ノ起ルヤ世人ハ一時英國ト露國トノ戰爭ヲ惹キ起スヘシト信シ英國ノ造船所ハ艦隊ヲ準備シ特務ナキ船艦ハ總テ之ヲ艦裝シ諸商港ニハ應援巡航艦ヲ編成スルカ爲メ其最良ナル郵便船ヲ供出セリ然レモ海軍軍入并ニ注意深密ナル觀察者ハ最初ヨリ英國ノ水

戰ヲ開カサルヲ確信セリ蓋シ其艦隊ハ先ツ改正
 ヲ要スルモハアレハナリ
 其後葛藤ノ了ルヤ英國提督府ハ緊要ナル諸種ノ
 問題ヲ研究セシムルカ爲メ急ニ海軍ノ一部ヲ召
 集シテ運動分艦隊ヲ將官ホオンビーチシテ之ヲ
 司令セシメ愛爾蘭ノ海軍ニ於テ屢々操練ヲ爲サ
 シメタリ然ルニ同分艦隊ノ證明スル所ニ據レハ
 凡ソ艦隊ハ泊灣ニ在テ水柵ヲ繞ラシ以テ自ラ防
 禦スルハ毫モ水雷艇及小軍艦ノ襲撃ヲ憂慮ス
 ルニ及ハス又甲鐵艦隊ハ開泊灣ニ碇泊シテ之ヲ
 蓋フニ障網ヲ以テスルハ總テ水雷艇ノ襲撃ヲ
 無效ナラシムルヲ得ヘク又英國ニ於テ採用セシ

第一等水雷艇ハ嘗ニ航海ニ堪ヘサルノミナラス
 乗組員ノ爲ニモ亦頗ル危險ナリト云フ是ニ於テ
 英國政府ハ三十八メートル形ノ水雷艇五十艘ノ
 製造ニ着手シ其中ノ數艘ハ既ニ落成セリ要スル
 ニ千八百八十五年中ニ於テハ英國ノ海軍ハ將來
 ノ爲メ確固ナル豫備ヲ爲シ又古製ノ船艦ハ總テ
 之ヲ廢スルノ原則ヲ認可セリ

(露國)千八百八十五年ニ於テハ英露兩國間ニ亞富
 汗事件ヲ生シタルモ露國政府ハ主トシテ商業ニ
 從事セシカ事幸ニ平定セリ爾來露國政府ハ將來
 ニ備フルカ爲ニ密ニ海軍ヲ改正シ又其強大ヲ期
 スルニ必要ナル國內ノ工業ヲ獎勵スルカ爲メ巨

多ハ金額ヲ消費セリ故ニ「バルチック」海及黒海ノ
 造船所ハ専ラ甲鐵艦及巡航艦等大船ノ製造ニ着
 手セリ
 又露國ノ兵力中最モ強大ナルモノハ水雷艇ノ船
 隊ニシテ其艘數ニ付キテハ地球上之ニ匹敵スヘ
 キモノヲ見ス此艦隊ハ常ニ進歩シテ毫モ退歩ス
 ルヲナケレハ他日其大功ヲ奏スヘキヤ必セリ又
 露國ニ於テハ近頃一時間ニ十二ノ「ツト」ヲ駛行シ
 且ツ充分ニ兵備セル新式反擊水雷艇ヲ製造セリ
 (獨國)千八百八十五年中獨國政府ハ大ニ其殖民地
 ヲ擴張シタレモ海岸ノ防禦ニ備フヘキ水雷艇ノ
 製造ヲ完了スルマテハ洋航艦隊ヲ増加スルノ必

要ナキヲ確信シ先年來實行セル所ノ事業ヲ續行
 セリ要スルニ獨國カ海軍國ニ列センカ爲メ同年
 中ニ實行セシ政畧ハ完全ナル參謀部及教練シタ
 ル乘組員ヲ設定シ多額ノ費用ヲ要スヘキ試驗ヲ
 省キ常ニ外國ノ形勢ヲ觀察スルニ在リタリキ
 (伊國)千八百八十五年中伊國政府ハ新造甲鐵艦二
 艘ヲ放水シ其新艦隊船艦ノ數ヲ七艘ト爲セリ又
 同國ニ於テハ水雷艇ヲ改良シ小船隊ヲ紅海ニ派
 遣シ又其海軍ノ編成ヲ續行セリ此外同國政府ハ
 曾テ參謀本部ニ於テ議定セシ規則ヲ實行スルカ
 爲メニ昨年十月ヲ以テ屢々大探練ヲ行ヒ有益ナ
 ル研究ヲ爲セリ

繼中子曰米
國守純然商
民的主義者
也而其國人
士能留心海
務者如此

以上千八百八十六年一月廿七日每週桑港「ク
リエー」ノ載スル所ニ係ル

又千八百七十六年合衆國政府ノ命ヲ帶ヒ造船場視
察ノ爲メニ歐洲諸國ヲ巡廻セシフヒリツプヒツチ
ポーン氏ノ同國海軍大臣ニ提出セル所ノ報告ニ據
レハ其巡遊セシ諸國ハ英佛獨露ノ四國ニシテ其報
告ハ頗ル有益ノ材料ナレハ之ヲ掲載スヘシ

(英國)英國政府ノ造船場ニ使用スル所ノ工夫ハ無
慮一萬八千人ニシテ其一日ノ賃銀ハ平均一弗三
錢ニ當レリ過ル十五年間英國軍艦ノ築造并ニ修
繕ノ爲メ支出セシ金額ハ一億七千九百六十四萬
九千六百廿五弗ニシテ此ノ外臨時費ヲ合算スレ

ハ其総額二億千七百三十一萬九千二百七十五弗
ニ達セリ

(露國)露國海軍ノ表ニ據レハ船艦及水夫ノ數頗ル
多シ世界海軍國中第三ノ地位ニ居リ表面ヨリ觀
ルキハ本年ノ初ニ當リ三百七十艘ノ軍艦アレハ
戰時實用ニ供スヘキモノハ水雷火船ヲ除キ百二
十艘ヨリ多カラサルヘシ

(佛國)佛國政府ハ五所ノ造船場ヲ有ス其廣袤凡九
百「エーカー」(凡二三百六十七)ニシテ乾涸船渠二十四
所アリ軍艦ノ築造修繕並ニ凡百ノ軍需製造貯藏
等ノ裝整然トシテ備ハリ且堅牢ヲ極ム我合衆國
ニ於テ此ノ如キモノヲ建築セシハ數十年ノ日

祺甲子曰獨
逸經畧所向
不在滿目風
塵之中雄心
可想

子ト數億弗ノ費額ヲ要スヘシト雖ヒ佛國ニ於テ
 賃銀低廉ノ工夫及懲役人等ヲ利用シ以テ能ク之
 ナ完備スルヲ得タリ
 (獨國)獨國ニ於テ千八百六十七年十月一日ヨリ現
 今ニ至ルマテ造船ノタメニ支出セシ金額ハ一億
 四百萬弗ニシテ今ヤ世界海軍國中第四ノ地位ヲ
 占ムルニ至レリ
 願テ又清國ノ海軍ノ現況ヲ察スルニ頗ル我國人ノ
 注意ヲ惹キ起スニ足ルモノアリ
 清國政府ハ「アルムストロング」鋼鐵甲裝ノ巡邏艦
 二隻ヲ英國ニ注文シ其一隻ハ已ニ其試航ヲ爲シ
 タルニ諸事都テ十分ノ成果ヲ示シタリ蓋シ其速

力ト云ヒ其裝砲ト云ヒ宇内各國ノ海軍中ニテ此
 二隻ノ右ニ出ルモノヲ見ス之ヲ以テ清國ノ海軍
 ハ益々其勢力ノ重キヲ添フヘキナリ
 現ニ同國政府ノ注文ニテ「ヤルロ」組ニ於テ製造
 中ナル第一等水雷火艇ハ粗々落成セリ英國海軍
 ト雖ヒ之ニ超エル程ノ水雷火艇ヲ有セサルナリ
 該艇百廿八呎ノ長サヲ有スト雖ヒ奇功ノ舵力ニ
 依テ直徑百三十呎ノ水面ニ於テ自由ニ運轉スル
 コトヲ得ヘシ之ニ「ワイツヘード」形水雷砲三門ヲ
 裝載セリ今夫レ英國海軍ニテ速力第一等ト稱ス
 ル水雷火艇ハ頃日此製造所ニテ打立タル第七十
 九號艇ナルカ其速力ハ一時間ニ廿五哩ナルニ清

國注文ノ方ハ更ニ一哩ヲ加ヘテ廿六哩ノ速力ナリ是レ英國ノ形ト同様ニ製造シテ其瀛力ヲ増シタルモノニシテ宇内各國ノ水雷艇中ニ於テ位首ヲ占ムルモノナリ

(以上千八百八十七年倫敦支那「エキス、プレス」ノ載スル所ニ係ル)

今ヤ我國ノ海軍ヲ數フレハ三十五隻アリト雖ヒ第一等軍艦ニ列スルモノハ浪速、高千穂、扶桑ノ三艦ノミニテ金剛、比叻、筑紫、海門、天龍、高雄ハ第三等ニ天城、清輝、春日、愛宕、摩耶、鳥海、赤城、磐城ハ第四等ニ列シテ未ダ一隻ハ第一等軍艦ニ列スルモノハ有セサルナリ若シ仔細ニ其艦体速力砲種ヲ觀察シテ優劣ヲ定

襪甲子曰菲
衣食而致力
於兵備無其
人外交政畧
不能一定固
不足怪也

橘香居曰魚
吾所欲熊掌
吾所欲舍魚
取熊掌孟軻
曾言之余亦
舍他獨欲取

ムレハ洋面ニ出テ、強大ナル敵國ノ艦隊ト馳駟シテ以テ雌雄ヲ砲彈雨注ノ間ニ決スルニ足ルモノ果シテ幾何アル歟我海軍ノ未タ充實ナラサル推シテ知ルヘキノミ嗚呼東洋ノ陸軍海軍ハ我日本チシテ第一等タラシムルニ非スンハ決シテ以テ東洋チ一振スルニ足ラサルナリ然ルニ今日ノ海軍ハ其艦体ノ大小ト云ヒ速力ノ遲速ト云ヒ裝砲ノ輕重ト云ヒ隻ニ彼ニ讓ラサルヲ得サルハ豈羞ツヘキノ甚シキニ非ス耶況ンヤ我國ハ進取ノ主義ヲ一定シテ以テ歐洲強國ト共ニ縱横ノ策ヲ講セントスルニ當リ防海ノ備ハ一日トシテ緩クスヘカラサルノ時タルニ於テチヤ要スルコ今日ハ常筭ニ齷齪セヌ非常ノ雄

斷ヲ振ヒ全國ノ全カヲ集メテ之ヲ兵備ノ一點ニ供
シ尙ホ内ニ足ラサレハ之レヲ外ニ求ムルモ決シテ
其進取ハ主義ヲ變セスシテ之ヲ貫徹スルニ在ル而
已矣

一默曰。古人句云。誰知歌舞地。元是戰爭基。今歐洲雄
國之謂也。

稷甲子曰。咄哉乱世英雄少。太平小人多。今日志士皆
汲々于内治而不知外患逼目前。空論泛議誤國自古
皆然。

橘香居曰嗚呼世界如飢
虎食肉有隙
可乘忽將逞
欲尙武風氣
不可一日缺
焉

守禦第十

尙武ノ方向第一

夫レ我國今日ノ最第一莫急ノ先務ハ戎備ヲ皇張シ
テ以テ進取ノ策ヲ立ルニアリ故ニ奢靡ノ弊ヲ嚴禁
シテ以テ勤儉ノ風ヲ勵マサル可ラス輕薄ノ俗ヲ矯
正シテ以テ廉耻ノ心ヲ興サ、ル可ラス虛飾ノ習ヲ
痛絶シテ以テ實効ヲ責メサル可ラス要スルニ我皇
上カ身ヲ以テ天下ニ先チ三千八百万同胞人民ニ示
スニ政略ノ方向ヲ明ニシ朝野ヲシテ心ヲ同クシ上
下ヲシテ力ヲ戮セ輿論ヲシテ一定セシメ天下ヲ鼓
舞シテ以テ尙武ノ精神ヲ擢揮スルニアリ
嗚呼天下萎靡競ハサルヤ尙シ誠ニ能ク今日腐敗ノ

龍甲子曰六
 合微塵微塵
 六合一人精
 神乃千万人
 精神也
 龍甲子曰嗚
 呼其弊也豈
 亦一朝一夕
 之故也哉

積弊ヲ激破シテ以テ尙武ノ精神ヲ擢揮セント欲セ
 ハ是レ亦我皇上カ神斷奮發以テ自ラ天下ヲ鼓舞ス
 ルイヨリシテ始メサルヘカラス夫レ歐洲ノ強國ハ
 競テ遠略ヲ事トシ露國ハ中央亞細亞ノ鐵道ヲ延長
 シテ撒馬爾汗土ヨリ清境ニ逼リ英國モ亦勢ニ制セ
 ラレテ印度ヨリ緬甸ヲ經テ雲南ニ接セント謀リ相
 並ヒテ馳騁セントシ東洋ノ勢危急ニ危急ヲ加フル
 モノ此ノ如シ苟モ我皇上ニシテ赫然トシテ震動シ
 海内ニ示スニ大有爲ノ志ヲ以テシ天下ノ人々ノ功
 名富貴ヲ求ムルモノヲシテ武勇ヲ尙テ以テ國勢ヲ
 壯ニシ六十餘州ノ全カヲ合シ三千八百萬人ノ心膽
 ヲ集ムルニ非サレハ我帝國ノ光威ヲ發揚シテ以テ

東洋ヲ一振スルヲ能ハサル所以ヲ知ラシムルハ
 三軍ノ勝氣直ニ海上ヲ壓シ朝鮮ヲ併セ支那ヲ吞ミ
 國威ヲ六合ノ外ニ宣揚スル所以ヲ思ハサルモノナ
 キニ至ルヤ知ルヘキナリ然シテ後チ英略雄斷次第
 ニ之ヲ畫シ以テ進取ノ策ヲ決ス可シ然レモ苟モ國
 民尙武ノ方向一定セズンハ規模以テ立ルヲ得ス
 汎々然トシテ定ル所ナク以テ奢靡ノ風ヲ嚴禁セン
 ト欲セハ則チ上下怠慢華奢ニ慣レ聲色ニ耽リ容易
 ニ之ヲ除クヲ得サルナリ以テ輕薄ノ俗ヲ矯正セ
 ノト欲セハ則チ狡獪百出利ヲ見テ義ヲ忘レ廉耻ノ
 風得テ之ヲ養フ可カラサルナリ以テ虛飾ノ習ヲ痛
 絶セント欲セハ則チ糊塗自ラ欺キ怠傲放肆以テ實

禮甲子曰今日之弊唯不取於歐洲之武而皆取於歐洲之文是以萎靡不立也

効ヲ立ツルモノアラサルナリ以テ天下ハ爲ニ進取
ハ策ヲ決セント欲セハ則チ天下ヲ舉テ愕然トシテ
驚怪セサルモノナキナリ夫レ誠ニ此ノ如クンハ天
下ノ事一モ以テ爲ス可キモノナシ何ソヤ他ナシ尙
武ノ方向一定セサルヘケレハナリ故ニ今日兵氣ノ
衰弱ヲ振作シ人心ノ腐敗ヲ洗刷シ以テ天下ヲ鼓舞
セント欲セハ尙武ノ精神ヲ擢揮スルニ若クハナシ
尙武ノ精神一定シテ守禦ノ策始メテ立ツ可キナリ
埃國ノ博士斯太因氏兵ノ精神ヲ論シテ曰ク夫レ兵
制アリシヨリ以來兵ノ精神ナルモノハ未ダ嘗テ斷
絶シタルヲナシ是レ此ノ精神ヤ瞬間モ休息セス凡
百ノ機會ニ際シテ萬象ヲ制スルノ力アルモノナリ

兵馬中此精神ノ發スル所ハ無比ノ失策モ之ヲ回復
スルヲ得可シ此精神ノ乏シキ所ハ無双ノ良制モ
其効ヲ奏スルヲ得サル可シ苟モ國家タリ國君タ
リ將ヲ將帥タルモノニシテ兵ノ精神ヲ外ニシテ其
方策ヲ立タルモノナク戰役ノ實効戰鬪ノ運命ヲ制
シタルモノハアラサルナリ故ニ兵ノ精神ハ民心ハ
活動ト兵機トヲ結合スル所ハ鉄繩タリ而シテ國ヲ
シテ強カラシムルモ將ヲ之チシテ弱カラシムルモ
此精神ノ如何ニアリト尙武ノ精神ヲ説キ得テ妙ナ
リト云フヘシ
嗚呼我國尙武ノ氣象ノ衰ヘタルヤ實ニ今日ヨリ甚
シキモノアラサルナリ試ニ想ヘ法權稅權共ニ外國

榎甲子曰血
淚三斗

ノ爲ニ毀傷セラレサルヲハナキ乎外人ノ我ニ對ス
ル果シテ尊敬ノ禮ヲ失セサルヲハナキ乎商權ハ尽
ク外人ノ手ニ歸セサルヲハナキ乎又清國ハ我國ノ
如クニ海軍ヲ必要トスルノ地勢ニ非サルニモ拘ラ
ス其海軍ノ進歩ハ東洋ニ於テ清國ヲ推シテ第一位
ニ置カサルヲ得サルナリ噫我國ハ四面繞ラスニ海
ヲ以テスル所ノ海國ニ非ラスヤ而シテ今日ノ海軍
ハ隣國ナル清國ニタモ讓ル事ニテハ豈雄ヲ東洋ニ
稱スルヲ得ン哉然ルニ朝野ノ論者齷々歎々トシ
テ先ツ自ラ退守ノ計ヲ爲ス噫何ソ其氣宇ノ小ナル
ヤ是ノ如クニシテ果シテ我帝國ノ獨立ヲ扶植スル
コトヲ得可キ歟吾儕ハ論シテ此ニ至ルヲ知ラサ

ルノミ

一默曰。余曾有作曰。審勢唯當制天下。方今可尙果何
事。丈夫亦有濟時心。敢說普相武一字。嗚呼。洗刷今日
腐敗以一振東洋者。在武之一字哉。
榎甲子曰。銳氣凜々如干將出匣。寶光耀目。真是秋霜
烈日之筆。

憂傑之術紫
山兄之意蓋
亦在此矣

皇、上、カ、妃、嬪、ヲ、遠、ケ、サ、セ、給、ヒ、日、ニ、各、鎮、臺、ニ、臨、幸、シ、軍
人、ト、共、ニ、軍、事、ヲ、談、シ、苟、モ、將、來、ニ、於、テ、大、ニ、望、ヲ、囑、サ
セ、ラ、ル、所、ノ、有、爲、ノ、將、校、士、官、ハ、益、々、之、ヲ、鼓、舞、シ、其
懦、弱、ニ、シ、テ、氣、力、ナ、キ、モ、ハ、之、ヲ、激、勵、ス、ヘ、シ、此、ハ、如
ク、ニ、シ、テ、誰、カ、感、激、鼓、舞、自、ラ、奮、ハ、サ、ル、者、ア、ラ、ン、此、ハ、
如、ク、ニ、シ、テ、誰、カ、軍、人、敬、重、ノ、心、ヲ、生、セ、サ、ル、モ、ア、ラ、
ン、此、ハ、如、ク、ニ、シ、テ、誰、カ、尙、武、ノ、精、神、ヲ、一、定、セ、サ、ル、モ、
ノ、ア、ラ、ン、此、ハ、如、ク、ニ、シ、テ、誰、カ、軍、人、親、密、ノ、情、ヲ、發、セ、
サ、ル、モ、ア、ラ、ン、此、ハ、如、ク、ニ、シ、テ、誰、カ、我、皇、上、ヲ、以、テ、
父、母、ト、爲、サ、ル、モ、ア、ラ、ン、吾、儕、之、ヲ、聞、ク、獨、逸、帝、國、
軍、隊、ニ、於、テ、ハ、兵、卒、ハ、勿、論、管、ニ、未、タ、曾、テ、一、人、ノ、欠、席、
遅、刻、ヲ、爲、ス、モ、ノ、ナ、キ、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、九、旬、ノ、高、齡、ヲ、重、マ

繼甲子曰玲
々耀々帝王
度量又是豪
傑心胸

ル、維、廉、老、帝、ト、雖、ヒ、畏、ク、モ、未、タ、曾、テ、一、秒、半、分、ノ、遅、刻、
ヲ、モ、爲、シ、タ、ル、コ、ト、ナ、シ、ト、云、ヘ、リ、嗚、呼、君、民、ノ、情、ノ、極、
メ、テ、親、密、ナ、ル、ト、獨、國、ノ、如、ク、兵、制、ハ、極、メ、テ、精、整、ナ、ル、
ト、獨、國、ノ、如、ク、尙、武、ノ、氣、風、ハ、極、メ、テ、盛、ナ、ル、ト、獨、國、ノ、
如、ク、謀、臣、雲、ノ、如、ク、猛、士、雨、ノ、如、ク、ナル、ト、獨、國、ノ、如、ク、
而、シ、テ、維、廉、老、帝、ノ、慈、ハ、天、ノ、如、ク、明、ハ、日、ノ、如、ク、之、ヲ、
兼、マ、ル、ニ、堯、ノ、德、ト、舜、ノ、仁、ヲ、以、テ、シ、意、氣、精、神、ノ、常、ニ、
士、卒、兵、隊、ノ、間、ニ、流、露、ス、ル、ト、此、ノ、如、シ、嗚、呼、是、レ、實、ニ、
今、日、世、界、ノ、眼、光、悉、ク、獨、逸、帝、國、ニ、集、マ、リ、猶、北、辰、ノ、其、
所、ニ、居、テ、衆、星、ノ、之、ニ、拱、フ、カ、如、ク、日、ニ、盛、ニ、シ、テ、毫、モ、
衰、ヘ、サ、ル、所、以、ナ、ル、歟、吾、儕、ハ、切、ニ、我、皇、上、ノ、之、ヲ、實、行、
サ、セ、給、ハ、ン、ト、ヲ、囑、望、ス、ル、ニ、堪、サ、ル、者、ナ、リ

礎甲子曰
落跌蕩舞
豪傑如露
帝者果有
幾人

嗚呼今日社會、如何ニ文弱ノ極度ニ達シ國家ハ如何ニ腐敗ノ絶頂ニ傾クト雖モ我人民ノ精神ハ固ヨリ沈滯懦弱ニシテ一種不可思議ナル支那朝鮮ノ人民ト日チ同クシテ語ルヘキニ非サレハ苟モ之ヲ鼓舞スルニ其術ヲ以テスルト露帝ノ巧ニ將士ヲ駕御スルカ如ク賢將ヲ用フルニ禮ヲ以テシ智將ヲ用フルニ才ヲ以テシ磊落跌宕四休ヲ展布シ調浪歌呼務メテ其才略ヲ盡サシムル時ハ尙武ノ風日ニ朝野ノ間ニ盛ニシテ東洋ノ一大武國ト爲ルヤ固ヨリ疑チ容レサルナリ苟モ之ヲ敬重スルニ其道ヲ以テスルト獨帝ノ篤ク將士ヲ待遇スルカ如ク誠ヲ推シテ欺カス信ヲ守テ疑ハス赤心ヲ兵士ノ腹中ニ置キ言其

礎甲子曰
冷而沈着

行ニ背カス行其言ト合シ自ラ行ヒ自ラ勞サセ給フ時ハ嘗ニ日本國內チ感動スルノミナラス宇内ニ對峙シテ其光威ヲ宣揚スルニ足ルヘキナリ夫レ自ラ信スル者ハ人モ亦之ヲ信ス胡越モ亦猶兄弟ノ如クナルニ非スヤ自ラ疑フ者ハ人モ亦疑フ身外モ亦皆敵國ニ等シキニ非スヤ吾儕ハ切ニ我皇上ノ常ニ我股肱腹心ナリト頼マサセ給フ所ハ宿將名臣ヲ近ケ軍人社會ノ親密ヲ圖ラレントチ囑望スルニ堪ヘサルナリ語ニ云ク「根本固而枝葉茂。泉源壯而流派長。」ト苟モ根本固カラサレハ枝葉ノ繁茂スルヲ望ント欲スレモ得ヘカラス泉源壯ナラサレハ流派ノ長大ナルヲ望ント欲スト雖モ得ヘカラス今日尙武ノ方向

秘甲子曰潔其流者澄其源直其末者正其本

チ○一○定○シ○朝○野○ヲ○シ○テ○軍○人○ヲ○敬○重○ス○ル○ノ○氣○風○ヲ○興○サ○シ○メ○ン○ト○欲○セ○ハ○我○皇○上○ノ○之○ヲ○敬○重○ス○ル○ヲ○ヨ○リ○シ○テ○始○メ○サ○ル○ヘ○カ○ラ○ス○今○日○文○弱○ハ○痛○弊○ヲ○力○破○シ○上○下○ヲ○シ○テ○軍○人○ト○親○密○ナル○習○慣○ヲ○生○セ○シ○ム○ル○者○ハ○是○レ○モ○亦○我○皇○上○ノ○之○ヲ○親○密○ニ○ス○ル○ヲ○ヨ○リ○シ○テ○始○メ○サ○ル○ヘ○カ○ラ○ス○孤○ハ○自○ラ○恃○ム○ヨ○リ○孤○ナル○ハ○ナ○シ○我○皇○上○ノ○堅○城○ト○シ○テ○恃○ム○所○ノ○者○ハ○我○兵○士○ニ○非○ス○ヤ○我○皇○上○ノ○鐵○壁○ト○シ○テ○恃○ム○所○ノ○者○モ○亦○我○兵○士○ニ○非○ス○ヤ○誠○ニ○我○堅○城○タリ我鎖壁タリトシテ恃ム所ノ兵士ニシテ親密ナラスンハ堂々タル我帝國ノ獨立ヲ奈何センヤ吾儕ハ切ニ我皇上ノ速ニ尙武ノ方向ヲ一定シテ明斷ヲ振ヒ偉略ヲ展ヘラレント足ヲ躋テ颯望スルニ堪

サルナリ

一默曰。吾聞千八百七十年之役。普王維廉年已逾古稀。精神矍鑠。每日乘騎環行營伍。撫循士卒。雖久於鞍馬之際。不以為勞也。嗚呼以盟主之權兼轄南北之版圖。蔚為中興。不亦宜哉。

秘甲子曰。紅爐百鍊見金精。一振日本。以永擴丕業者。眞在我皇上鼓舞之術哉。

守禦第十二

南北經營方ノ策

我國守禦ノ道ハ内ヨリシテ外ニ及ホシ近キヨリシテ遠キニ至リ然シテ後進取ノ長策以テ漸次ニ經畫スル所アル可キナリ故ニ南北二邊ノ經營ハ實ニ深思熟計セサル可カラサル者アリ南方トハ何ソヤ曰ク南溟諸島是レナリ北方トハ何ソヤ曰ク北海十州是レナリ

夫レ對馬ハ北緯三十四度十分ニ起リ三十四度五十分ニ至テ止ミ東經百廿九度十二分ノ所ニ當ル全島ノ長サ北ハ北東ヨリ南ハ南西ニ至ル三十七海里其廣袤最モ狹隘ナル所ハ凡ソ一海里ヲ有シ地位ヲ

朝鮮海峡ニ占メ其地形東南ノ分水點ヲ成シ恰モ中部日本ト朝鮮トノ中央ニ在テ天然ノ碇泊場ヲ成ス者ト云フ可シ而シテ對馬ヲ海軍碇泊所トシテ樞要ナル位置ヲ占ムル者ハ「タムラ」灣ナリ同灣ハ本島ノ西方ヨリ嶋地ニ闖入シテ殆ント其中央ニ至リ四個ノ大灣ヲ成シテ各灣數個ニ分レ各能ク數隻ノ船艦ヲ碇泊スルニ最モ便利ナリトス地誌ヲ案スルニ巨文島ハ二個ノ長形ノ島ト一個ノ小島ヨリ成立チ内島ヲ巨文島ト名ケ土人ハ之ヲ三島ト稱ス朝鮮全羅道群島中尤モ我五島ニ近キ島嶼ナリ東北ハ我對州ヲ距ルヲ凡ソ八十英里我四十里許長崎ヨリ航スルニ日本形船ニテモ稍巨大ニシテ迅速ナル者ニ乘

シテ快風ニ駕セハ半日ヲ費シテ至ル可ク其距離日
 本里程八十里ナリ該港ハ實ニ天然ノ良港ニシテ或
 島中第一等ナル航路ニ至ルハ
 麥チ常食ニ充テラント云ヘリ島中米ヲ産スル人ハ
 爲セリ他ノ風俗人情推シテ知ルヘキノ食糧ト足ルノ島ハ
 巨文島ヲ距ルヲ西三十英里釜山ヨリ巨文島ニ至ル
 ノ航路ナレハ其對州ヲ距ルヲ巨文島ヨリモ近キ
 知ル可シ又永興港ハ巨文島ヨリ北ニ距ルヲ凡百八
 十里長崎ヨリ五百七十里横濱ヨリ千二百里ニコラ
 イフスク港ヨリ千五百六十里ニシテ露國最南部ノ
 浦搦斯德港ハ永興港ヨリ北方三百九十里ノ所ニ在
 テ航程一日ヲ以テ達スルヲ得可キナリ(永興港一
 サトシ)灣ノハ朝鮮ノ東海岸ニシテ北緯三十九度十九分

礎甲子曰所
 致於人而不
 能致人所制
 於勢而不能

テニ直經百朝國英ト細亞大陸ト接續スル峽間ニ在
 然リ今露國支那及日本ニ對シテ朝鮮全國ヲ防禦スル
 ニ在リテ即チ意ヲ示シテ易クモ非ス何スルニレハ興
 港ノ防備ハ決シテ容カシムルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 港ノ長ク又南カシテ位カシムルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 陸方ニ宜ナク水深ニテ多クハ内港ニ至ルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 二八哩ノ水ニテ深シクハ内港ニ至ルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 ス又浮出スルニテ深シクハ内港ニ至ルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 雖也朝鮮ハ深シクハ内港ニ至ルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 元來朝鮮ハ深シクハ内港ニ至ルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 他港卓絶スル炭石船渠ヲ設クハ富メルコトナラズ且チ兵艦ノ積
 キ一港事ナリト巨文島ノ附近島嶼ハ他兵事ノ上得ルコトナラズ
 便宜事ナリト巨文島ノ附近島嶼ハ他兵事ノ上得ルコトナラズ
 ヨリ劣レテ巨文島ノ附近島嶼ハ他兵事ノ上得ルコトナラズ
 朝鮮トシテ巨文島ノ附近島嶼ハ他兵事ノ上得ルコトナラズ
 備ヘス雄國大邦ハ窺窓ハ前ニ曝シ敵砲寇艦ノ殘

制勢弱國衰
邦自古皆然
豈可勝慨矣
哉

破、下、ニ、委、シ、所、謂、門、牆、ヲ、設、ケ、ス、昏、夜、ニ、睡、ル、モ、ナ、
リ、豈、深、ク、危、マ、サル、ヲ、得、ン、哉、
抑モ露國カ大平洋ノ沿岸ニ良港ヲ得ント欲スルヤ
其由テ來ル久シ案スルニ露國カ東部ノ所領西北利
亞ノ海岸ハ北氷洋ニ連リ其間ニ位スル人口ハ甚々
稀少ナルヲ以テ巨多ノ陸軍ヲ置テ此地ヲ守ラシム
ルハ頗ル難事ナリ故ニ此地ヲ保護スルニハ單ニ海
軍ニ依頼セサル可カラス然ルニ露國ハ此ノ海岸ニ
於テ軍艦ヲ碇泊セシム可キ二三ノ海港ヲ有スルニ
モ拘ラス冬期ニ至テ氷結ノ爲ニ封鎖セラレサルモ
ノハ一箇所トシテ之レアラサルハナク浦盤斯德港
ノ如キ其中ニテ尤モ南方ニ在ルモノナレトモ同シク

禮中子曰所
謂坐而地盡
者真我國之
謂也

此憂アルヲ免レサレハ露國ノ艦隊ハ毎年四ヶ月港
内ニ蟄伏セサルヲ得サルナリ左レハ露國ハ十分ニ
海軍ヲ運用シ得可キノ良港ヲ求ムルニハ我對馬ニ
於テスルカ朝鮮ノ海嶼ニ於テスルカ之外ニシテ
ハ復タ他ニ得ルヲ能ハサル可シ故ニ若シ露英ノ兩
國カ日本ノ近海ニ相追逐スルカ如キヲアラシムニハ
英國ハ露國ヲ亞細亞ニ扼センカ爲ニ再ヒ巨文嶋ニ
據リ露國ハ更ニ對馬ノ借用ヲ我ニ求ムルヲナシト
モ云フ可ラサルナリ對馬ニシテ果シテ我敵國ノ爲
ニ占領セラル、カ如キヲアラシム平我日本ノ海軍ハ
支那海ニ出入スルニ必要ナル航路ヲ封鎖セラレタ
ルト一般ナリ何ソ啻ニ進取ノ策ヲ決スルヲ得サ

磯甲子曰此
策不擴張海
軍則不能實
行矣噫

ルノミナラソ保守ノ策モ亦完クスル所ナキニ至ラ
ントス之ヲ約言セハ對馬ニシテ一ヒ失スルコアラ
ンニハ我日本ハ一步モ東洋ニ力ヲ出ストチ得ス蜻
州彈丸ノ一隅ニ退守セサルチ得サルモノナリ此ノ
如キ形勢近キニアルニ當テハ對馬ハ一日トシテ其
防備ヲ怠ル可ラス其策何クニ出ツ可キカ曰ク海軍
ヲ擴張スルハ固ヨリナリト雖ヒ今日先ツ宜シク膽
識兼優ノ良將ヲ選ヒテ之ニ全島ヲ統一スルノ大權
ヲ與ヘ砲臺ヲ築キ城壘ヲ備ヘ漸次ニ艦隊ヲ編制セ
シメ以テ完全ナル海軍駐港ト爲スヘシ苟モ此ノ如
クンハ一面ニハ朝鮮及支那海ノ咽喉ヲ扼シ進テハ
以テ南溟ヲ經略スルノ根據ト爲ル可ク退テハ以テ

日本諸嶋ヲ防衛スルノ海軍港ト爲ルヤ疑チ容レサ
ルヘキナリ吾儕ハ之ヲ爲スト決シテ其難キニ非ラ
サルチ知ルナリ
更ニ轉シテ北邊ノ事ヲ觀レハ露國ノ勢ハ駭々トシ
テ日ニ南ニ下リ我北海道ニ隣ル所ト爲リ虎視耽々
トシテ我ニ逼ルカ如クナルニモ拘ラス全道十州ノ
地未ダ一砲一艦ノ能ク之ヲ守ルニ足ル可キモノナ
シ故ニ露人益々蠶食シ東境ヲ以テ北境ニ換フルニ
至レリ且ツ薩哈連嶋西間内ノ如キハ八九年前ハ我
國ノ版圖ニ屬シ海岸所々ニ我國風ノ家屋ヲ存シ剩
ヘ土人モ本邦語ヲ辨セサルナキタニ皆露人ノ據ル
所ト爲レリ尤モ今日ノ明治政府モ亦近日一面ニハ

福甲子曰苟如此則編制日本哥薩克隊決非難也今世無活眼人士遺憾何堪

殖産ノ道ヲ謀リ一面ニハ屯田兵ノ本據ヲ立ツルニ汲々アリト雖其規模ノ甚タ宏濶ナラサルヲ惜ムナリ吾儕ノ見ル所ヲ以テスレハ宜シク殖民政略ヲ實行ス可シ先ツ文武全備ハ良將ヲ選テ全道及屯田兵ノ長官ニ任シ會津熊本等勇猛剛健ノ人士ヲ募集シテ之ニ殖民セシメ之ト同時ニ速ニ鉄道ヲ敷設セシム可シ而シテ其移住者ニハ資本農具及銃器等ヲ貸與シ之ヲ獎勵シテ以テ其事業ニ就カシムルヲ宜シトス無事ハ日ハ各自ニ産業ヲ營ミ有事ハ時ハ變シテ一種ハ軍隊ヲ編制セシメ漸次ニ精銳ノ兵士ヲ揀ヒ百人千人若クハ萬人ト管轄部伍ヲ爲シ眞成ナル常備軍ト爲スモ亦可ナリ其兵機奇變ハ運用ハ固

ヨリ之ヲ主將ノ方寸ニ委ス此レ兵機ヲ曉ルモノト言フ可ク俗士ト共ニ言フニ足ラサルナリ將々其長官ハ甞ニ全道ノ規律實行ヲ督視スルノミニ止ラス軍兵ニ關スル糧食其他ノ準備等ヲモ司ル可シ吾儕竊ニ以爲ラク誠ニ此ノ如ク膽略文武ノ長官ヲシテ大ニ其ノ智力ヲ展ヘ其ノ成功ヲ遠大ニ期シ三四年間ニ之ヲ撫治振勵セシメ中央政府ハ能ク其材ハ稱否如何其事ノ成敗如何ヲ觀テ之ヲ賞罰黜陟セシメハ必ス其目的ヲ達スルコトヲ得可シ然シテ後チ猛將ヲ發シ壯士ヲ出シ雄圖遠略次第ニ之ヲ畫セハ北荒數千里ノ地之ヲ唾手ノ中ニ収ム可キナリ彼ハ清國政府カ近年滿州内部ニ殖民政略ヲ實行シ

檀香居曰諺曰大器不入里耳余未難得行之者耳得聞之者亦幾許乎

露國政府カ西比利亞地方ニ屯田兵ヲ組成ルカ如キ想フニ此ニ外ナラサル可キ歟嗚呼我南北ノ經營既ニ堅ク防備全ク充實スルハ彼ノ露艦ノ北邊ヲ覬覦シ南溟ヲ窺伺スルモ何ノ恐ル、
一カ之レアラシ然シテ後チ我英斷チ振ヒ遠略ヲ擴メ内ヨリシテ外ニ及ホシ近キヨリシテ遠キニ至リ以テ進取ノ策ヲ定ム可シ

一默曰。衆角雖多。一麟足矣。在其人哉。在其人哉。
韃甲子曰。大綱未舉。何問小節。此論姑置不問亦可。

韃甲子曰吾以爲朝鮮之喪也久矣徒建空名於東洋之表耳

朝鮮ノ處置第十三

朝鮮ハ恰モ露英獨佛諸國競争ノ間ニ立テ動搖浮沈定ヲナキ一ノ球子ノ如ク攻守共ニ其自力ヲ他國ニ示ス一チ得ス露國ニ頼ン乎露國ハ最モ之ニ頼ルヘキ國ナリト雖モ其意未ダ測ル可ラス支那ニ頼ン乎支那ハ到底之ヲ保護スルノ能力ナキ國ナレハ最モ之ニ頼ルヘカラス我日本ニ頼ン乎日本ノ政略モ亦安心シテ以テ之ニ頼ルヘキニ非ラスト思惟セシナラン嗚呼朝鮮ノ運命モ亦此ニ至テ已ニ盡キタリ蓋シ朝鮮ノ獨立ス可ラサルヤ久シ亶ニ今日ニ始マリシニハ非ス初メ我國ノ人士カ嶠州孤島ノ中ニ齷齪シ絶テ海外ハ大勢ニ通モサリシヨリシテ一葦水

韃甲子曰事齊乎事楚乎朝鮮之事已矣

チ、隔、テ、タル、朝鮮ノ、事情サ、ヘ、モ、之、チ、知、ル、モノ、ナ、ク、朝
 鮮ヲ、以、テ、彼、我、對、等、ノ、獨、立、國、ト、看、做、シ、彼、チ、シ、テ、歐、洲
 諸、國、ト、條、約、ヲ、締、結、セ、シ、メ、其、權、衡、ニ、由、テ、以、テ、其、自、立
 チ、保、タ、シ、メ、ン、ト、シ、タル、ハ、實、ニ、小、兒、ノ、見、ナ、リ、ト、云、ハ
 サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、而、シ、テ、今、日、ニ、至、ル、マ、テ、朝、鮮、ノ、問、題、ノ
 日、清、ノ、間、ニ、跨、リ、テ、彼、此、交、々、汨、没、^{トコ}テ、其、主、屬、關、係、ノ、未
 タ、決、セ、サ、ル、モ、ノ、ハ、抑、モ、我、國、ノ、之、チ、其、第、一、着、ニ、誤、リ
 タ、ル、モ、ノ、ニ、シ、テ、今、日、臍、ヲ、噬、ム、ニ、遂、ニ、及、ハ、サ、ル、ナ、リ
 又、清、國、ハ、朝、鮮、ヲ、以、テ、東、洋、安、危、ノ、係、ル、所、真、ニ、所、謂、ル
 「譬、猶、吳、之、彝、陵、陸、抗、之、所」云、如、有、警、當、傾、國、力、以、爭、之、者
 ト、爲、シ、勉、メ、テ、清、主、韓、屬、ノ、名、實、ヲ、全、ク、セ、ン、ト、欲、シ、タ
 リ、シ、モ、未、タ、其、機、會、ヲ、得、サ、リ、シ、カ、遂、ニ、李、氏、ノ、智、謀、ヲ

韃甲子曰固
 是殺滅之道
 也

以、テ、其、計、ヲ、成、ス、ニ、汲、々、シ、今、日、ニ、至、テ、ハ、實、際、ニ、朝、鮮
 ノ、君、民、ハ、共、ニ、百、事、決、テ、清、國、ニ、仰、キ、政、權、ハ、殆、ン、ト、李
 氏、ノ、股、肱、ニ、云、フ、ヘ、キ、所、ノ、袁、世、凱、ノ、手、ニ、落、チ、タル、カ
 如、シ、報、知、記、者、ハ、頻、ニ、英、國、新、紙、ノ、擧、ニ、倣、ヒ、朝、鮮、ト、
 テ、真、ノ、中、立、ノ、地、位、に、立、タ、シ、む、る、ハ、紛、擾、ト、招、キ、多、事
 を、生、ず、る、ノ、源、ニ、シ、テ、其、結、局、露、國、ノ、吞、噬、又、便、宜、ト、與
 ふ、る、に、過、き、さ、る、が、故、又、成、る、べ、く、同、國、ト、以、テ、支、那、ノ
 所、屬、ト、爲、シ、支、那、ト、シ、テ、專、ら、露、國、東、侵、ノ、衝、に、當、ら、シ
 む、る、に、若、く、は、あ、リ、ト、論、セ、リ、朝、鮮、ハ、最、早、ヤ、記、者、ノ、所
 見、ノ、如、ク、業、ニ、已、ニ、清、國、ノ、保、護、國、ト、爲、レ、リ
 今日、東、洋、全、局、ノ、長、計、ノ、爲、ニ、之、チ、謀、ン、ニ、誰、カ、報、知、記
 者、ノ、所、見、ノ、如、ク、支、那、ノ、舉、動、ヲ、傍、觀、ス、ヘ、シ、ト、斷、言、ス

韃甲子曰固
 々朝鮮不亡
 而何

福甲子日以
朝鮮與之支
那猶歐洲強
國以巴幹半
島委之土耳
其其危險實
不可言焉

ルモノアラソ乎試ニ想ヘ清國ハ如何ニ全力ヲ傾ケ
テ朝鮮ニ臨ムト雖モ果シテ能ク之ヲ守リ得ヘシト
スル歟試ニ想ヘ清國ハ果シテ朝鮮全土管理ノ責ニ
當テ其長大ナル海岸ノ六港ヲ防衛スルコトヲ得ヘシ
トスル歟試ニ想ヘ東洋ハ運命ニ關シテ最モ利害ヲ
有スル露英諸國ノ葛藤モ爲リ最モ之ヲ統御スルニ
難シスル所ハ朝鮮ヲ以テ最モ無責任ニシテ最モ無
能力ナル清國ノ手ニ純屬セシムルヲ以テ東洋ハ利
ナリトスル歟將テ我國ノ利ナリトスル歟苟モ我ニ
シテ朝鮮ノ占領ヲ清國ニ聽サンコハ是レソ取リモ
直サス朝鮮ヲ以テ露國ニ與フルモノナリ露國ハ曩
キニ英國カ一時ノ權宜ヲ以テ巨文島ヲ占領シタル

ノ時ニ於テスラモ屢々清國ニ逼リタルヨリ遂ニ英
國ノ軍隊ヲシテ巨文島ヨリ退去セシメタルニ非ス
ヤ左レハ苟モ我ニシテ朝鮮ノ占領ヲ支那ニ聽スハ
日ハ露國ハ已ニ日清ニ向テ開戦ノ途ニ立テルモハ
ナリト云ハサルヘカラス清國ハ未ダ其政ヲ朝鮮ニ
布クニ違アラサシテ露軍ハ馬ニ圖們江ニ飲テ早ク
已ニ朝鮮ニ入ランコト火ヲ賭ルヨリモ明カナルヘシ
嗚呼我國ノ爲ニ之ヲ謀ルニ支那ヲ扶ケ露國ヲ敵ト
シテ以テ之ニ抗スルヲ得策ナリトスヘキ乎將タ露
國ト共ニ清國ヲ敵トシテ以テ進取ヲ計ルヲ得策ナ
リトスヘキ乎誠ニ能ク東洋ノ大勢ヲ達觀シテ之レ
カ論ヲ立ツル者ハ清國ノ如キ無能力ナル政府ヲシ

テ朝鮮ノ全土ヲ占領セシムル者ハ決シテ策ノ得ルモノニ非サルヲ悟ルヘキナリ
 露國ノ日ニ東洋ノ勢力ヲ得ルニ隨テ日清ノ死命ヲ制シテ以テ鯨吞狼食ノ欲ヲ逞クスルニ至ルヘキハ必然ノ勢ナリトス左レハ露國ハ東侵ハ我國ハ大患遠憂タルヲ吾儕ハ常ニ反覆痛論スル所タリ然レモ今日東洋ノ多事ニ際シテ徒ニ將來永遠ノ事ノ憂慮シテ乘スヘキノ機會アレヒ之ニ乘スルヲ知ラス爲スヘキノ策略アレヒ之ヲ爲スヲ知ラサルモノハ凡庸政事家ノ通弊ナリ今日露國ハ未タ我日本ニ向テ開戦ノ途ニ立テルモノニモ非サレハ亦我ニ怨ヲ構ルヲモナカルヘキニ何ソ屑々トシテ之ヲ畏

榎甲子曰英
 國商國主義
 也耳向有一
 點俠氣乎
 榎甲子曰是
 俾士交對露
 之秘訣
 橋香居曰是
 可謂近交近
 攻之謀

ル、ヲチ敢テセンヤ吾儕ハ露國東侵ノ勢ヲ制スルノ策アレハ勉メテ之ヲ制セント欲スル者ナリ又百方力ヲ尽シテ以テ此東侵政略ヲ未發ニ防シノ處置ヲ怠ラサル者ナリ然ルニ試ニ想ヘ是レ果ノ今日日清兩國ノ力ヲ以テ之ヲ制シ得ヘシトスル歟日本ハ支那ト同盟スレヒ我兵ノ未タ朝鮮ニ着セサルノ前ニ露軍ハ早シ進テ北京城ヲ拔クヲ得ヘシ英國ハ伶俐ナル豈日清兩國ハ爲ニ死力ヲ出シテ露國ト戦フ者ナラン哉故ニ吾儕ハ今日ノ計ハ己ムヲ得サレハ寧ロ露國ノ東ニ向ヒ境土ヲ擴ムルヲ承諾シ共ニ進テ朝鮮ヲ略シ清國ニ向フヲ以テ策ノ得タル者ナリトス

一默曰。朝鮮經略之機已去矣。日本人動迷於議論。機會在前而不知乘之。千古遺憾。

褪甲子曰。前年雞林之變。余有一律。其中有言曰。人為惜身忘大節。國因無策失尊榮。波濤黑水長鯨吼。風雨空山老魅驚。無策二字日本政事家皆然。吾亦何言。

日清ノ關繫第十四

日清ノ關繫ハ我東洋ノ大勢ノ由テ定マル所ナリ左レハ東洋ノ大体ヨリ之ヲ論スレハ兩國互ニ相當ノ位置ヲ保チ其交誼ヲ厚クシ治ニ於テモ相濟ヒ乱ニ於テモ相濟ヒ以テ聯衡ノ進路ニ向フキハ啻ニ兩國ノ幸福タルノミナラス誠ニ東洋全局ノ幸福ナリト云フヘシ蓋シ我日本ヲ以テ支那ヲ輔クル時ハ支那益々強ク支那ヲ以テ我日本ヲ輔クル時ハ日本益々強ク進テ以テ歐洲ニ對立スル所ノ亞細亞帝國ヲ現出スルニ至ラン吾儕ノ疑ヲ容レサル所ナリ然レモ是レ果シテ今日ノ日清兩國ニ望ムヘキ乎是レ果シテ東洋ノ盟主ヲ定メスシテ其望ヲ達スヘキ乎是

褪甲子曰古
人曰有禍不
及禍來運我
今日日清關
繫此也已

遼甲子曰我
備擴張我日
本不及支邦
豈不可羞耶

レ實ニ吾儕カ今日兩國ノ識者ニ十分ノ注意ヲ乞ハ
ント欲スル所ナリ
願テ清國ノ形勢ヲ察スルニ同國政府カ近年銳意シ
テ國運ノ進歩ヲ計畫シ歐米ノ文物ヲ利用スルノ事
ハ姑ク置クモ陸海ノ軍備ハ最モ長足ノ進歩ヲ爲シ
北海ノ防禦ヲ初メトシテ沿岸要衝ノ海防ト云ヒ陸
軍ノ擴張ト云ヒ海軍ノ改良ト云ヒ皆駭々トシテ其
歩ヲ進メ着々其効ヲ見ルニ足ルモノアリテ我日本
カ廿年間ノ急進モ亦彼レニ一着ヲ輸スルコトナキニ
ハ非ス左レハ此一點ヨリ論ヲ立ツル時ハ今日ノ清
國ハ往日ノ清國ニ非サレハ我日本ハ宜シク清國ト
共ニ同盟ノ方向ヲ一定シテ東洋ノ大勢ヲ扶持セサ

題李鴻章肖像

智謀推略儘兼優
凜々威風四百州
問汝東洋振興策
能施鍊血手腕不
越海曰鴻章首肯可知也



謀甲子曰
東洋之大事
在斷之一字
斷則功成古

ルヘカヲサルヤ勿論ナリ然リト雖ヒ今日ハ兩國共
ニ進取ノ方向ヲ同クセサルヲ奈何センヤ况ンヤ
支那ハ未タ吾人ト共ニ東洋政界ヲ談スルニ足ラサ
ルチヤ彼ノ琉球ノ案件ハ我當然ノ政略ニ起リシモ
ノナレヒ清國ハ我ヲ以テ不逞ノ志アリトシ必ス之
ヲ恢復センヲ望ミ朝鮮ノ處分ハ我寛大ノ政略ニ
成ルモノナレヒ清國ハ我ヲ敵視シ已ニ之ヲ併吞ス
ルノ準備ヲ成セリ論者或ハ曰ク此等ノ事ハ未着ノ
ミ苟モ彼ヲシテ我政略ノアル所ヲ知ラシムレハ則
チ彼レ豈我ヲ疑ハンヤト吾儕ハ竊ニ以テ重大ノ問
題ナリトス何トナレハ朝鮮ノ問題ハ直ニ東洋ノ運
命如何ニ關スルモノナレハ此問題ニシテ決着セス

人曰獨斷者
可以爲天下
王眞然

魏甲子曰東
洋之所以不
能同盟連衡
者無盟主也
此言獲我心

ンハ決シテ露國ニ對スルハ政略ヲ定ムルヲ能ハサ
ルヘケレハナリ夫レ朝鮮ハ到底獨立スヘキノ國ニ
非ス又到底獨立スルヲ能ハサルハ國タレハ我國ハ
宜シク一切自主ノ權ヲ廢シテ以テ我外省ヲラシム
ルヲ必要ナリトスレハ清國政府ハ之ヲシテ中國
ノ屬邦ヲラシムルヲ必要ナリトシ其利害ノ相反
スルヤ氷炭モ亦齟ナラサルナリ之ヲ奈何ソ東洋ノ
大勢ニ關シテ利害ヲ共ニスルヲ得ノ哉
且ツ夫レ亞細亞ノ大勢ヲ一振シテ以テ大ニ實威實
權ヲ張ラント欲セハ東洋ノ盟主ヲ定ムルヨリ始メ
サルヘカラス苟モ東洋ノ盟主ニシテ定マラサレハ
何程ニ日清兩國ヲシテ同盟ノ方向ヲ執ラシムルモ

決シテ其實効ナカルヘシ何トナレハ今日ノ如ク兩
國互ニ將來ノ方向ヲ異ニシ進テハ以テ進取ノ主義
ヲ一決シ全力ヲ合シテ露國ニ當ルヲ能ハス退キテ
ハ以テ平和ノ主義ヲ一定シ相提携シテ至密ノ交際
ヲ爲スト能ハサルハ要スルニ盟主ノ定マラサルニ
アルヘケレハナリ夫レ日耳曼列邦ノ統一成リテ獨
逸之レカ牛耳ヲ執リ然シテ後ニ普埃同盟ノ策立ツ
東洋諸國ト雖モ苟モ其盟主ヲ定ムルニ非スンハ日
清兩國モ亦一致ノ方向ヲ執テ以テ同盟ノ途ニ就ク
ヲ能ハサルヘキナリ蓋シ亞細亞ノ全局ヲ以テ之ヲ
考フルニ支那ハ果シテ東洋ノ盟主タルヘキ乎日本
ハ果シテ東洋ノ盟主タルヘキ乎其盟主ノ位地ヲ定

秘甲子曰今日我苟不能一定進取策苟且偷安送日則清國併吞朝鮮爲防禦之根據以逼我也必矣當此時與之爭雖雄機已晚矣

メテ以テ歐洲強國ニ對峙スルニ至ラハ其實勢實力ハ亦昔日ノ亞細亞ニ非ス其實權實威モ亦昔日ノ亞細亞ニ非ス進テハ以テ露國ノ東侵政略ヲ防クニ足ルヘシ退キテハ重キヲ歐洲列國ニ示スヲ得ヘシ然レモ其盟主ヲ定ムルハ日清ノ刀劍ヲ太平洋中ニ試ミ火雨血浪ノ一大活劇ヲ演スルニ非スンハ其局ヲ結フヲ能ハサルヘキナリ想フニ此ノ如クナラサレハ當ニ盟主ノ位地ヲ定メテ東洋ヲ一振スルヲ能ハサルノミナラズ亦決シテ日本ノ實威ヲシテ東洋ノ全局ニ及ホスヲ能ハサルヘキナリ之ヲ要スルニ假令ヒ今日清國ヲシテ進取主義ヲ執ラシムルモ將々保守主義ヲ執ラシムルモ日本ニシ

秘甲子曰日本貧弱衰運已逼矣而支那雖未振其財力已富矣其人口亦衆矣隱然雄視東洋恐非我日本小政事家所及也

テ東洋ノ盟主ヲ清國ニ讓リ其後ヘニ就テ以テ事ヲ爲ストヲ肯テセサルヨリハ決シテ一致同盟ノ方向ニ進ムヲ能ハサルヤ勿論ノミ故ニ今日我日本ノ爲メニ之ヲ謀レハ假令ヒ一時清國ノ歡心ヲ失フモ露國ノ歡心ヲ失フヲ決シテ策ノ得タルモノニ非サルナリ清國ノ利害ノ爲ニ露國ヲ敵視スルヲ決シテ策ノ得タルモノニ非サルナリ清國ノ歡心ヲ失スルハ我ニ於テ重シ清國ノ利害ハ我ニ於テ輕ク露國ノ利害ハ我ニ於テ重シ安ソ清國同盟ノ輕キニ拘ハリテ露國同盟ノ重キニ代フルヲ得ン哉論者徒ニ露國ヲ畏懼スルヨリシテ備サニ利害ノ大小ヲ揺ルヲ能ハス動モスレ

ハ日清同盟ノ利ヲ説ク豈憫笑ノ至リニ非スヤ嗚呼
 今日假令ヒ清國ヲシテ我ニ同盟セシムルハ日本ニ
 於テ果シテ幾何ノ利益アリトスルヤ況ンヤ其利害
 ノ相反スル其關繫ノ未タ定ラサル今日ニ在テハ強
 テ之ヲシテ同盟セシムルモ亦得ヘカラサルニ於テ
 オヤ故ニ今日東洋ノ急務トスル所ハ日清兩國ノ關
 繫ヲ定ムルニアリ苟モ日清兩國ノ關繫ニシテ定マ
 ラサレハ一致同盟ノ方向ニ進ムト能ハス一致同盟
 ハ方向ニ進マサレハ安ソ東洋ハ大勢ヲ一振シテ共
 ニ歐洲強國ニ對立スルハ實カチ示ストチ得ン哉
 一默曰。定東洋之盟主者在今日焉。何以言之。曰。露國
 未竣完西比利亞鐵道也。

褪甲子曰高
 峰如墜石

褪甲子曰。英政方衰。其不能振餘權於東洋。蓋不出于
 十年也。然露國吞中央亞細亞之謀已熟矣。而漸將逞
 雄圖於東洋。東洋之危機已兆矣。識時之俊傑豈得不
 講東洋之大計乎哉。

褪甲子曰。賴春水句云。誰知風流滿眼世。君家赤壁畫
 周郎。今時才人往々局于理論。而不能一定主戰方向
 其能不為周郎所憫笑者。幾希。